東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

# 平成 29 年度
# 体験活動プログラム
# 活動報告

体験活動の推進に関するワーキンググループ

平成 30 年 3 月 31 日

## 目次

Ⅰ　体験活動プログラム実施概要 ..... 1

Ⅱ　体験活動プログラム活動報告 ..... 3

Ⅲ　体験活動プログラム活動報告会 ..... 37

Ⅳ　付録

・体験活動プログラム概略 ..... 41

# Ⅰ　体験活動プログラム実施概要

**●概要**

学部前期・後期課程の学生を対象とし、大学生活とは異なった考え方や発想、行動様式又は価値観と触れ合うための多様な形態と内容のプログラムを提供するものです。

平成 24 年度に「体験活動の推進に関するワーキンググループ」を設置し、平成 24 年度には 176 名が活動に参加、さらに平成 25 年度以降は研究室体験活動プログラムを加え、毎年多くの学部学生を様々な体験の場に送り出しています。

**●平成２９年度体験活動プログラム実施データ**

**＜プログラムの件数および募集人数＞**

○　提供プログラム数：123 件、活動実施プログラム数：94 件、募集人数：821 名

| 区分 | プログラム提供件数 | プログラム実施件数 | 募集人数 |
|---|---|---|---|
| 国内プログラム | 76 件(61%) | 58 件(62%) | 514 名(63%) |
| 海外プログラム | 23 件(19%) | 22 件(23%) | 193 名(24%) |
| 研究室プログラム | 24 件(20%) | 14 件(15%) | 114 名(14%) |
| 全プログラム | 123 件(100%) | 94 件(100%) | 821 名(100%) |

**＜出願、参加状況＞**

○　全プログラムでの総募集人数 821 人に対し、出願者数は 652 名(79%:募集人数比)、出願者のうち、参加者数は 412 名(63%:出願者数比)。

○　国内プログラムは総募集人数 514 名に対し、出願者数は 244 名(47%:募集人数比)、出願者のうち、参加者は 185 名(76%:出願者数比)。

○　海外プログラムは総募集人数 193 名に対し、出願者数は 349 名(181%:募集人数比)、出願者のうち、参加者は 179 名(51%:出願者数比)。

○　研究室プログラムは総募集人数 114 名に対し、出願者数は 59 名(52%:募集人数比)、出願者のうち、参加者は 48 名(81%:出願者数比)。

| 区分 | 総募集人数 | 出願者数 | 参加者 | 不採択者 |
|---|---|---|---|---|
| 国内プログラム | 514 名 | 244 名<br>〈47%〉 | 185 名<br>《76%》 | 59 名<br>《24%》 |
| 海外プログラム | 193 名 | 349 名<br>〈181%〉 | 179 名<br>《51%》 | 170 名<br>《49%》 |
| 研究室プログラム | 114 名 | 59 名<br>〈52%〉 | 48 名<br>《81%》 | 11 名<br>《19%》 |
| 全プログラム | 821 名 | 652 名<br>〈79%〉 | 412 名<br>《63%》 | 240 名<br>《37%》 |

〈　〉内は募集人数との比率、《　》内は出願者数との比率

なお、プログラムに出願し、不採択となった者が別のプログラムに出願しているため、出願者数は延べ数を示す。

また、研究室プログラムについては複数の申請が可能となっており、出願者数及び参加者数は延べ数を示し、不採択者数には採択後に参加を辞退した者及び活動中止となったプログラムに参加を予定していた学生の数を含む。

＜採択者の属性＞

◆男女別内訳

○　参加者 412 名の男女別内訳は、男子学生が 245 名(59%)、女子学生が 167 名(41%)。

| | 男子学生 | 女子学生 | 計 |
|---|---|---|---|
| 参加者の男女別内訳 | 245 名<br>(59%) | 167 名<br>(41%) | 412 名<br>(100%) |

◆学年別内訳

○　参加者 412 名のうち、学部前期課程学生は 225 名(55%)、学部後期課程学生は 187 名(45%)。

○　参加者 412 名の学年別内訳は、1 年生 84 名(20%)、2 年生 141 名(34%)、3 年生 140 名(34%)、4 年生 44 名(11%)、5 年生 3 名(1%)、6 年生 0 名(0%)。

| | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | 5 年 | 6 年 | 計 | 男子 | 女子 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 法 | | | 17 名 | 7 名 | | | 24 名 | 19 名 | 5 名 |
| 医 | | | 6 名 | 0 名 | 3 名 | | 9 名 | 5 名 | 4 名 |
| 工 | | | 29 名 | 13 名 | | | 42 名 | 27 名 | 15 名 |
| 文 | | | 21 名 | 2 名 | | | 23 名 | 16 名 | 7 名 |
| 理 | | | 8 名 | 3 名 | | | 11 名 | 5 名 | 6 名 |
| 農 | | | 23 名 | 5 名 | | | 28 名 | 14 名 | 14 名 |
| 経済 | | | 9 名 | 4 名 | | | 13 名 | 9 名 | 4 名 |
| 教養 | 84 名 | 141 名 | 17 名 | 6 名 | | | 248 名 | 142 名 | 106 名 |
| 教育 | | | 6 名 | 4 名 | | | 10 名 | 5 名 | 5 名 |
| 薬 | | | 4 名 | 0 名 | | | 4 名 | 3 名 | 1 名 |
| 計 | 84 名 | 141 名 | 140 名 | 44 名 | 3 名 | | 412 名 | 245 名 | 167 名 |

教養学部欄の「1 年」、「2 年」の欄は、前期課程の学生を示す。

◆学部前期課程学生の科類別内訳

| | 文一 | 文二 | 文三 | 理一 | 理二 | 理三 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年 | 17 名 | 18 名 | 15 名 | 16 名 | 13 名 | 5 名 | 84 名 |
| (国内) | 7 名 | 9 名 | 7 名 | 8 名 | 8 名 | 1 名 | 40 名 |
| (海外) | 8 名 | 9 名 | 8 名 | 4 名 | 1 名 | 2 名 | 32 名 |
| (研究室) | 2 名 | 0 名 | 0 名 | 4 名 | 4 名 | 2 名 | 12 名 |
| 2 年 | 32 名 | 25 名 | 22 名 | 26 名 | 26 名 | 10 名 | 141 名 |
| (国内) | 11 名 | 6 名 | 16 名 | 6 名 | 10 名 | 3 名 | 52 名 |
| (海外) | 17 名 | 15 名 | 6 名 | 17 名 | 11 名 | 5 名 | 71 名 |
| (研究室) | 4 名 | 4 名 | 0 名 | 3 名 | 5 名 | 2 名 | 18 名 |
| 計 | 49 名 | 43 名 | 37 名 | 42 名 | 39 名 | 15 名 | 225 名 |

# Ⅱ　体験活動プログラム活動報告

## 国内プログラム名称


| | | ページ数 |
|---|---|---|
| 1 | 療育を知ろう | 4 |
| 2 | 東大こだま分教室の学習支援 | 4 |
| 3 | さいかち学級の学習支援(品川区立清水台小学校) | 4 |
| 4 | 「学びのポイントラリー」地域教育支援参加 | 5 |
| 5 | 東大病院入院中の難病の子どもの家族を支援するドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのインターンシップ | 5 |
| 6 | TSCP学生委員会による本学低炭素キャンパス活動 | 5 |
| 7 | 石垣島白保のサンゴ礁調査赤土流出のモニタリングと現地文化体験 | 6 |
| 8 | 高校魅力化プロジェクト～超人口減少・少子高齢化・財政難の離島中山間地域で学習支援と課題発見・解決～ | 6 |
| 9 | 少子高齢化最前線でみる日本の明るいミライ地域ではたらき、生きる、暮らし体感インターンシップ | 6 |
| 10 | 旧・博物館動物園駅の再生を軸にしたアートによる上野・谷中の地域活性化活動 | 7 |
| 11 | 困難を抱えるこども達の自然体験活動をサポート！～海で・山で・川で～ | 7 |
| 12 | こども達の自然体験活動をサポートするリーダーにチャレンジ！～山・海・川・湖でダイナミックな体験を～ | 7 |
| 13 | 海外ナースと学ぶ日本の看護研究の最先端 | 8 |
| 14 | 日本語教室でのボランティア | 8 |
| 15 | Documentary research for the French Embassy | 8 |
| 16 | 学術出版の体験的学習 | 9 |
| 17 | 「復興留学」～復興まちづくりの業務体験～ | 9 |
| 18 | 未来を指向する地方自治体の活動への参加 | 9 |
| 19 | 陶板複製名画美術館を体験する | 10 |
| 20 | 地方高校活性化計画 | 10 |
| 21 | 農家に泊まろう！～農林業のフロンティア・みなかみで一次産業の可能性を考える～ | 10 |
| 22 | JICAの国内研修現場で国際協力を知る | 11 |
| 23 | 今地方の企業が面白い！地域に根付く中小企業の魅力に触れるシゴト旅 | 11 |
| 24 | 誰も知らない京都を作り出せ！～東大生しかつくれない旅行プラン@KYOTO～ | 11 |
| 25 | 「好き」だけで終わらせない！～自らの手でファッションの未来を創ろう～ | 12 |
| 26 | 将来のライフイベント(結婚・出産・育児)をリアルに考える～キャリアプランのみが将来図ではない！ | 12 |
| 27 | 未来の働き方を考えよう！働き方改革に取り組むチームでその最前線を学ぶ | 12 |
| 28 | 仏教界の先進的な取り組み(マインドフルネス等)と現代社会における役割について学ぶ就労体験 | 13 |
| 29 | 美術館で町おこし！芸術文化で地域を盛り上げよう@アーツ前橋 | 13 |
| 30 | 犯罪被害者支援に関する事業の実施 | 13 |
| 31 | 自殺予防事業を実施するNPOの事務局としての活動 | 14 |
| 32 | 挑戦者求ム！愛知の老舗ものづくりメーカーで挑む廃材活用新ビジネス | 14 |
| 33 | 加賀温泉郷まるごとキャンパス体験 | 14 |
| 34 | カンキツの収穫・販売体験から中山間地域の底力を考える | 15 |
| 35 | 地方創生の最先端地に学ぶ-ITとアート 徳島県神山- | 15 |
| 36 | 聖地熊野の歴史文化と自然を体験しつつ、新宮市の文化行政を学ぶ | 15 |
| 37 | 文化ワークショップを基本とした過疎・高齢地区のまちづくり体験プロジェクト | 16 |
| 38 | 再エネで地方を元気にする地域エネルギー系ベンチャー企業でのインターン@東北 | 16 |
| 39 | おじゃり申せ種子島！　宇宙に最も近いディープな島まるごと体験プログラム | 16 |
| 40 | 学術成果の国際発信を現場で体験：あなたもUTokyo Research 編集部の一員に！ | 17 |
| 41 | プラチナ大賞・総務大臣賞受賞のベンチャー都市雲南で中山間地域行政を考える | 17 |
| 42 | 農業・牧場作業体験@北海道 | 17 |
| 43 | どっぷりディープな農業・漁業体験(DDNG) | 18 |
| 44 | 花巻市大迫町でトライアルステイ～ぶどう栽培体験から考える課題解決の突破口 | 18 |
| 45 | 食のまちづくり体験プログラム@福井県小浜市 | 18 |
| 46 | 中山間地域を見る・感じる・考える～北海道鷹栖町で、今後の中山間地域・地方創生について考えよう | 19 |
| 47 | 都内でも農林作業フィールドワーク体験 | 19 |
| 48 | 生産者と消費者をつなぐ食べものつき情報誌「食べる通信」コーディネーター | 19 |
| 49 | 搾乳・乗馬・トラクター運転等を体験しながら肉の生産過程を知ろう | 20 |
| 50 | 癒しの森の森林管理～おじいさんは山へ柴刈りに～ | 20 |
| 51 | 森が社会に貢献する－持続可能な森づくりへの挑戦－ | 20 |
| 52 | 海のフィールドワーク体験活動 | 21 |
| 53 | 伊豆の体験活動　－南伊豆という一地域との連携に学ぶ－ | 21 |
| 54 | 北海道の遺跡博物館における学芸員体験と冬のオホーツク文化体験 | 21 |
| 55 | 地域イイトコ発見プロジェクト ～フィールドワークから学ぶ地域の健康～ | 22 |
| 56 | 被災地福島の農業と環境放射能を知るツアー | 22 |
| 57 | 矯正施設の現状と課題：　府中刑務所フィールドツアー | 22 |
| 58 | 保育園を拠点とした地域づくり:「まちの保育園」の取り組みに学ぶ | 23 |


## 海外プログラム名称


| | | ページ数 |
|---|---|---|
| 1 | 中国訪問 + キャンパスツアーと学生交流 | 24 |
| 2 | 上海および上海近郊の地方都市を中心とした国際交流体験活動 | 24 |
| 3 | 大学・企業・文化体験 in 韓国　－韓国を知る、韓国から日本を見る－ | 24 |
| 4 | シンガポールでビジネスを学んでみよう | 25 |
| 5 | 医学と平和 | 25 |
| 6 | カンボジア　教育系グローカルインターンシッププログラム | 25 |
| 7 | 新興国インドでの体験活動-インド赤門会との交流・IIT-K日本語授業サポート- | 26 |
| 8 | Healthy Humpbacks(ザトウクジラの健康調査) | 26 |
| 9 | TOPS (Tokyo Oxford Programme of Summer) | 26 |
| 10 | 英国ロンドン、海外で働くとは | 27 |
| 11 | VE_italia・Veneto Experience | 27 |
| 12 | フランスEcole Polytechniqueにおける研修(理系) | 27 |
| 13 | スウェーデン王立工科大学(KTH)での国際交流活動体験日本語授業サポートと企業訪問 | 28 |
| 14 | 革命100周年・国交回復60年の隣国ロシアの今 | 28 |
| 15 | アラブ首長国連邦の「いま」:沸騰都市ドバイ，未来都市マスダール，石油都市アブダビ | 28 |
| 16 | ハーバード大学医学部研究室の訪問・デスカッション | 29 |
| 17 | アメリカで仕事をすることの素晴らしさとチャレンジを、アメリカのハートランドであるシカゴと国際都市ワシントン訪問を通して多角的に探ろう | 29 |
| 18 | 国連(NY)での会議に学生ボランティアとして参加 | 29 |
| 19 | コロンビア大学所属東大卒業生の教授、研究者、学生を訪問・ディスカッション | 30 |
| 20 | ニューイングランド有機農場 での Community Supported Agriculture 体験 (米国) | 30 |
| 21 | オーガニック農場 での Sustainable agriculture 体験(米国) | 30 |
| 22 | 世界の情報発信の中心地、ニューヨークの脈動を体感してみよう | 31 |


## 研究室プログラム名称


| | | ページ数 |
|---|---|---|
| 1 | 再生医療の研究開発に触れる | 32 |
| 2 | 「医の知」に触れる－手術とは何か？ 体内臓器を探ってみましょう！ | 32 |
| 3 | 特許・文献データベースを用いた生命科学分野の研究活動の検証 | 32 |
| 4 | 農地環境サンプルの放射性核種の検出と測定 | 33 |
| 5 | 脳・身体と精神のシステム論的研究への誘い | 33 |
| 6 | クラスター計算機の試作と並列計算 | 33 |
| 7 | 光学・量エレ系研究室短期体験 | 34 |
| 8 | 知能移動ロボットの行動と制御 | 34 |
| 9 | 水理模型を用いた津波防災堤防の実験 | 34 |
| 10 | 環境調和型技術としての超臨界水を学ぶ | 35 |
| 11 | 発達障害のある子どもを対象とした認知心理実験の現場体験 | 35 |
| 12 | DO-IT(Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology) Japan | 35 |
| 13 | 演習環境をもちいたサイバーセキュリティ体験活動 | 36 |
| 14 | 生体分子から動物個体まで～生物化学の研究体験 | 36 |

## 【国内プログラム】

### 01. 療育を知ろう

島田療育センターはちおうじ

診療現場の見学や診察にきた子供の遊び相手、重度心身障害者の介護や作業療法、言語聴覚療法、理学療法などの見学を行った。スヌーズレンという重度心身障害者が刺激を得ることを目的とする活動では、絵本の読み聞かせに大きく反応してくれ貴重な体験をした。また、職員の明るく、強い使命感を持った介護の姿勢に深い感銘を受けた。

日　　程：2017/8/14(月)-8/25(金)
参加学生：1名
活動場所：東京都八王子市　島田療育センターはちおうじ
備　　考：島田療育センターはちおうじ
　　http://www.shimada-ryoiku.or.jp/shima8

### 02. 東大こだま分教室の学習支援

東京大学医学部附属病院

院内学級「東大こだま分教室」で、子ども達の学習支援を行った。こだま分教室では、一人一人の進度や体調に合わせて授業内容を構築しており、授業中先生が一人をみている間に、別の子どもに学習のアドバイスを行うなどの支援を行った。また、行事に参加して、子ども達と楽しい時間を共有した。普段関わることが少なかった院内学級について、見識を深め、自分ができることを考えて実行する機会となった。

こだま分教室

日　　程：2017/8月下旬-2018/3月、各自定められた日程
参加学生：5名
活動場所：東京大学医学部附属病院東大こだま分教室(本郷キャンパス)
備　　考：東京都立北特別支援学校　東大こだま分教室
　　http://www.h.u-tokyo.ac.jp/kodama/top/top.htm

### 03. さいかち学級の学習支援(品川区立清水台小学校)

院内学級「さいかち学級」で、闘病中の子ども達の学習支援を行った。勉強を教える以外にも、子ども達と話すなど安心できる空間を提供することに携わった。子ども達の様子を見ながら、様々に表れる気持ちや行動を理解し、対応する術を身を以て学ぶことができた。病弱な子ども達に対する社会的な支援はまだ十分とはいえない。行政だけでなく、社会が向き合うことの大切さを実感した体験活動であった。

日　　程：2017/8月下旬-2018/3月、定められた日程
参加学生：1名
活動場所：昭和大学病院さいかち学級（東京都品川区）
備　　考：さいかち学級
　　http://www.showa-u.ac.jp/SUH/guide/saikachi/
　　NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」
　　http://www.nhk.or.jp/professional/2011/0124/index.html

## 04.「学びのポイントラリー」地域教育支援参加

教育学研究科の市川教授が主宰する「地域の学び推進機構」に約半年間参加し、地域の小中高生に体験型の学びの機会を提供する「学びのポイントラリー」の実施をサポートした。期間中はイベントの実施だけではなく、幹事会での主催側の企業や社会人の方々との関わりを通して、運営の立場での手間や労力についても直接知ることができる機会となった。活動のまとめとなる3月の学びのポイントラリーフェスティバルでは参加学生が東大探検ツアーを企画から実施までを担当し、地域の子供たちに対してプログラムを提供した。

日　　程: 2017/8月-2018/3月
参加学生: 1名
活動場所: 東京都文京区・江東区・台東区・渋谷区　他
備　　考: 地域の学び推進機構
http://www.chiiki-manabi.org/index.html

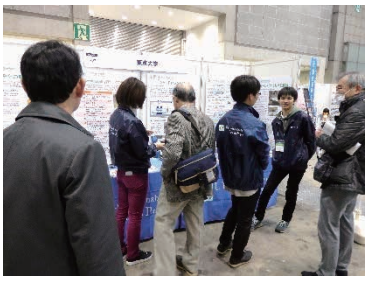
## 05. 東大病院入院中の難病の子どもの家族を支援するドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのインターンシップ

東大ハウス

ドナルド・マクドナルド・ハウス東大において、小児難病患者を抱える家族を支援するボランティア活動を行った。主業務はハウスキーピング、事務、募金活動であり、病院内の見学やハウス運営に関する講義の受講なども行った。活動を通して、今まで知ることのなかった社会の一面を知り、支援のあり方を考えるきっかけになった。ドナルド・マクドナルド・ハウスでは数多くの方がボランティア活動を行っていることを知り、ボランティアに携わる気持ちをさらに深めた。

日　　程: 2017/7月-2018/3月、各自定められた日程
参加学生: 4名
活動場所: 本郷キャンパス　東京大学医学部附属病院隣接の東大ハウス
備　　考: 医学部附属病院小児医療センター
公法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・
ジャパン　ドナルド・マクドナルド・ハウス　東大ハウス
http://www.dmhcj.or.jp/house/list/todai.html益財団

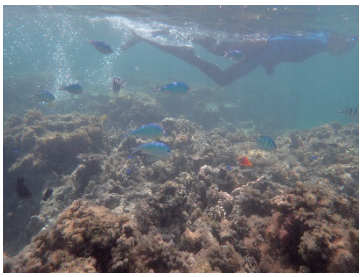
## 06. TSCP学生委員会による本学低炭素キャンパス活動


エコプロ2017への出展

東大サステイナブルキャンパスプロジェクト(TSCP)学生委員会スタッフとして職員と共にTSCP活動に参加した。具体的には、TSCP定例会への参加、日本最大級の環境展示会「エコプロ2017　環境とエネルギーの未来展」への出展と準備を行った。エコプロ2017に来場する子どもから高齢者まで幅広い年齢層にTSCPの紹介が行えるよう、パネルやモデルを作成し、説明方法を工夫することで、多くの人に関心を持ってもらえる機会となった。

日　　程: 2017/7月-2018/1月、定められた日程
参加学生: 1名
活動場所: 本郷キャンパス
東京大学サステイナブルキャンパスプロジェクト室
備　　考: 東京大学サステイナブルキャンパスプロジェクト
http://www.tscp.u-tokyo.ac.jp/

## 07. 石垣島白保のサンゴ礁調査<br>赤土流出のモニタリングと現地文化体験



サンゴ礁調査

沖縄県の石垣島を訪問し、島内白保地区の珊瑚礁調査と、珊瑚礁生態系に影響を与えている陸上からの赤土の海洋流入について、その実態をモニタリング調査した。スノーケリングで海に潜り、海水を採取し赤土堆積量の調査を実施した。また、現地滞在中はホームステイを体験し、住民に海とのかかわりについて聞き取り調査を行った。活動前は事前に学内で沖縄の海洋生態系およびその漁業資源を利用する地域の人々についてのレクチャーを受けることで、海洋生態系と、それを活用する沿岸漁業従事者に対する理解を深めることができた。

日　　程：2017/9/6(水)-9/9(土)
参加学生：2名
活動場所：沖縄県石垣市白保地区
備　　考：認定特定非営利活動法人　アースウォッチ・ジャパン
　　http://www.earthwatch.jp/

## 08. 高校魅力化プロジェクト～超人口減少・少子高齢化・財政難の離島中山間地域で学習支援と課題発見・解決～

新潟県阿賀町　黎明学舎

講演風景

今年度は島根県海士町と新潟県阿賀町の学習センターにおいて学習支援補助に携わった。それぞれの地域では、学習センターが高校生の学業や進路について支援している。学習支援に加えて与えられた、「地域の魅力発見」という課題の調査を通して、教育や参加者自身がどのような役割を果たし、またどう貢献できるのかを深く考える機会となった。阿賀町では町の行政や教育についての提案を行い、関係者の前で発表を行った。

日　　程：2017/8/1(火)-9/1(金)のうち、3週間以上
参加学生：3名
活動場所：島根県隠岐郡海士町、新潟県東蒲原郡阿賀町
備　　考：株式会社Prima Pinguino
　　http://pripin.co.jp/

## 09. 少子高齢化最前線でみる日本の明るいミライ<br>地域ではたらき、生きる、暮らし体感インターンシップ

株式会社M-easyと愛知県豊田市が旭地区で行う農山村振興事業を見学・体験した。廃校になった旧小学校の建物を利用したコミュニティセンター「つくラッセル」の見学や、地区の森林に入り、森の健康診断や間伐、薪割りを行った。旭地区では家族で過ごす時間が何よりも大切にされており、沢山の子どもがいる。子どもたちや住民の方々と関わりを体験する中で、自身の暮らし方についても考える機会となった。

日　　程：2017/8/24(木)-8/26(土)
参加学生：3名
活動場所：愛知県豊田市旭地区
備　　考：株式会社M-easy
　　http://www.m-easy.co.jp/

## 10. 旧・博物館動物園駅の再生を軸にしたアートによる上野・谷中の地域活性化活動

K7s Green Gallery（定例会開催場所）

“旧・博物館動物園駅の進化と再生プロジェクト”提案とアートイベントを通して、上野・谷中の地域活性化活動を行うNPO法人上野の杜芸術フォーラムの活動に参加した。イベント企画や運営を行いながら、アートマネジメントを中心とした地域活性化運動に取り組んだ。地域活性化においては、行政よりも地域の人々の活動が大きく影響していることを実感し、まちづくりに取り組む上での刺激となった。

日　　程：2017/8月-2018/3月
参加学生：4名
活動場所：台東区　上野公園～谷中地域
備　　考：NPO上野の杜芸術フォーラム紹介ページ
　　https://activo.jp/users/11364

## 11. 困難を抱えるこども達の自然体験活動をサポート！ ～海で・山で・川で～

自然体験活動をサポート

島根県の三瓶青少年交流の家、鹿児島県の大隅青少年自然の家、長崎県の諫早青少年自然の家のいずれかの活動に参加し、不登校など特定の課題を抱えた子供達を対象としたキャンプのサポートリーダーとして支援を行った。それぞれのプログラムでは登山、野外炊事などの体験を行い、自然体験活動の知識やコミュニケーションスキルを養った。こども達やスタッフとの関わりを通して、自身の可能性や能力、新たな分野への関心に気づいた。

こども達とのミーティング

日　　程：2017/8/7（月）-8/9（水）、8/11（金）-8/14（月）、
　　8/13（日）-8/19（土）
参加学生：3名
活動場所：長崎県諫早市、鹿児島県鹿屋市、島根県大田市
備　　考：国立青少年教育振興機構　http://www.niye.go.jp/

## 12. こども達の自然体験活動をサポートするリーダーにチャレンジ！ ～山・海・川・湖でダイナミックな体験を～

こども達をサポート

北海道の日高青少年自然の家、兵庫県の淡路青少年交流の家のいずれかの活動に参加し、青少年を対象に豊かな人間性を育むための自然体験活動事業にサポートリーダーとして関わった。日高青少年自然の家では、小学校4～6年生のグループの野外炊事や登山、サイクリングなどの活動をサポートした。淡路青少年交流の家では、淡路島一周踏破にチャレンジする小学5～6年生のグループリーダーとして、安全管理や指導を行った。

淡路島を踏破

日　　程：2017/7/31（月）-8/6（日）、8/20（日）-8/27（日）
参加学生：2名
活動場所：北海道沙流郡、兵庫県南あわじ市
備　　考：国立青少年教育振興機構　http://www.niye.go.jp/

## 13. 海外ナースと学ぶ日本の看護研究の最先端

アジア各国の看護系大学院生を対象とした、医学系研究科看護学専攻主催のサマープログラムに東京大学の学部学生として参加した。最初に日本の医療制度や看護教育、介護保険制度についての講義を受け、その後にGlobal Nursing Research Center、附属病院やマクドナルドハウス、看護学専攻研究室、高齢者在宅サービスセンター、池袋保健所を訪れた。最終日には今回の経験を発表し、看護学専攻の先生方や海外の大学院生と医療制度や文化の違いについて話し合いを深めることで専門を核とした国際交流の機会を得た。

日　　程: 2017/8/2(水)-8/9(水)
参加学生: 1名
活動場所: 東京大学医学部、附属病院
備　　考: 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻
国際交流委員会
http://www.hn.m.u-tokyo.ac.jp

アジア各地からの看護系大学院生と

マクドナルドハウス(東大ハウス)訪問

## 14. 日本語教室でのボランティア

留学生を対象とした日本語教室の授業に参加し、質問に対応する、会話のペアになる等授業の運営を補助する活動を行った。留学生の理解を高めるために、言い方を工夫するなど自身にとっての学びの場となった。また、留学生との交流によって、あらためて日本語や日本文化について考察する機会となり、同時に他国の文化に対する敬意や国際交流に携わる楽しさを学んだ。

日　　程: 2017/10月-2018/3月、各自定められた日程
参加学生: 8名
活動場所: 東京大学大学院工学系研究科日本語教育部門
備　　考: 日本語教室　http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/

## 15. Documentary research for the French Embassy

今年度はフランス大使館の文化部門であるアンスティチュ・フランセにおいて書類作成や翻訳、ウェブサイトの原稿作成や内覧会での業務補助を行った。このような日常的な業務や見学に併せて、展覧会やイベントなどの審査に同行したり、美術関係者との打ち合わせに同席するなど、仏大使館の行う文化的事業の一端を体験した。また、資料を通して大使館業務の概要を知る機会にも恵まれ、フランスの公的機関の内側から日本を見るという貴重な経験をした。

展覧会

日　　程: 2017/9月-2017/11月
参加学生: 1名
活動場所: アンスティチュ・フランセ(東京都新宿区)
備　　考: アンスティチュ・フランセ　http://www.institutfrancais.jp/

## 16. 学術出版の体験的学習

活動の前半では、東京大学出版会の諸部局の活動内容や業界全体の概要に関するレクチャーを受け、出版業務全体についての理解を深めた。後半は編集業務に携わる職員の指導のもと、自分が作ってみたい本について実際に企画書を作成し、本の内容や著者、ページ数や価格なども含め、活動の最終日にプレゼンテーションを行った。企画案を作成する合間には、校正や目次作成などの編集作業の体験や、印刷会社や製本会社、取次企業等の訪問も行った。

日　　程：2017/8/28(月)-9/15(金)
参加学生：3名
活動場所：駒場キャンパス 一般財団法人東京大学出版会
備　　考：東京大学出版会　http://www.utp.or.jp/

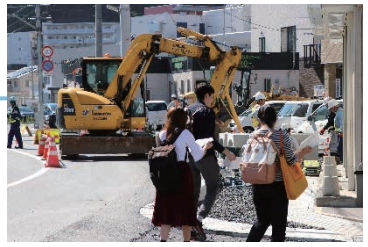
プレゼン質疑応答

プレゼン終了

## 17.「復興留学」～復興まちづくりの業務体験～

官民一体の釜石市の復興業務に携わった。釜石市役所からは復興計画と戦略的な取り組みについて、釜援隊からは隊の概要と釜石の食のPRについて伺った。地域による復興のスピードや選択肢の違いは、住民の意思を尊重した上で、合意に基づいたものである事を学んだ。また、岩手県立大学の活動に参加し、商業地区を復活させる聞き取り調査や、釜援隊の元隊員の活動を言語化する業務を通し、支援の在り方の一つのモデルを学んだ。

日　　程：2017/8/28(月)-9/8(金)
参加学生：3名
活動場所：岩手県釜石市近郊
備　　考：釜援隊　http://kamaentai.org/



釜石市市内の様子

市役所職員からのヒアリング

## 18. 未来を指向する地方自治体の活動への参加

三重県玉城町において二週間に渡って活動を行った。町長、副町長、教育長、各課長を始めとする玉城町役場の方々や町内の施設(保育所、介護施設、工場、NPO)にてそれぞれ取り組まれていることや施策についてお話を伺い、会議に同席したり事業の一部を見学・体験した。プログラム後半は地元の大学生が活動に合流し、最終日の成果発表会では二週間に渡る活動の中で気付いた点や課題、その解決への提案などについてまとめ、関係者に向けて発表や意見交換を行った。

日　　程：2017/8/14(月)-8/25(金)
参加学生：1名
活動場所：三重県玉城町
備　　考：玉城町役場　https://kizuna.town.tamaki.mie.jp/

## 19. 陶板複製名画美術館を体験する

大塚国際美術館において今年度はミレニアル世代に向けたSNS広報を体験した。同館が積極的に広報ツールとして利用しているSNSを通じて「初めての来館者」「東京大学の学生」という視点でFacebookやInstagramでのおすすめ絵画の投稿を行い、最後にまとめとして参加者全員で美術館のホームページの記事を作成した。投稿の際の情報の正確性やトレンド傾向、発信の時間帯やアプローチの仕方など、多角的に広報の視点を学ぶ機会となった。

日　　程：2017/8/25(金)-8/27(日)
参加学生：8名
活動場所：大塚国際美術館(徳島県鳴門市)
備　　考：大塚国際美術館　http://www.o-museum.or.jp/

大塚国際美術館にて

名画を体験

## 20. 地方高校活性化計画(東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト)

千葉県鴨川市の文理開成高校で在校生への夏期講習を中心に4日間の活動を行った。中高生への学習指導に加え、校長先生や鴨川市長、教育長など要職の方々よりお話を伺う機会を設けていただき、学校運営や鴨川においての教育について考える機会を持つことができた。夏季講習最終日に前向きに勉強に取り組むようになった生徒の姿を見ることができたことも、かけがえのない経験となった。

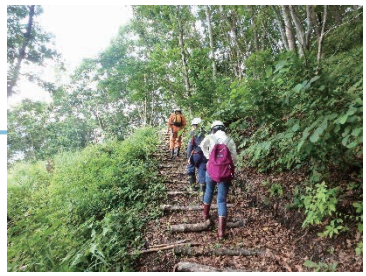
日　　程：2017/8/1(火)-8/4(金)
参加学生：2名
活動場所：文理開成高校(千葉県鴨川市)
備　　考：文理開成高校
https://bunri-kaisei.ed.jp
東京大学三四郎会
http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/

教室から見える海

## 21. 農家に泊まろう！～農林業のフロンティア・みなかみで一次産業の可能性を考える～(東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト)

群馬県みなかみ町でグリーンツーリズムを企画している、みなかみ町体験旅行が主催する農家民泊“農泊”をしながら10日間を過ごした。農作業(トマトの収穫や牛の世話)やシラカバの伐採などの作業だけでなく、地元のお祭りや小学生への農業体験イベントの運営補助、みなかみ町の将来展望を話し合う会議に出席するなど、幅広い体験を通して、地方の現状について現実的に関心を持つきっかけとなった。

日　　程：2017/8/16(水)-8/25(金)
参加学生：3名
活動場所：群馬県利根郡みなかみ町
備　　考：みなかみ町体験旅行
http://m-tr.jp/
東京大学三四郎会
http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/


林業体験

芋掘り

## 22. JICAの国内研修現場で国際協力を知る

JICA東京国際センターで研修のオブザーバーとして同席し、二週間の期間の中で業務補助として研修後のアンケートと、研修員の帰国後の実施計画について分析を行い、最終日に発表を行った。JICA職員だけでなく、各国の研修員や専門指導用の外部委託者、現場で直接技術指導を行う開発コンサルタントなど様々な国際協力業務に携わる方々から話を伺うことができ、国際協力業務の幅の広さを知ることになった。

日　　程：2017/8/21(月)-9/8(金)
参加学生：2名
活動場所：JICA東京国際センター(東京都新宿区)
備　　考：JICA東京国際センター
https://www.jica.go.jp/tokyo/
東京大学三四郎会
http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/

病院の衛生「カイゼン」研修

JICA東京国際センター

## 23. 今地方の企業が面白い！地域に根付く中小企業の魅力に触れるシゴト旅

石川県金沢市、七尾市、白山市内の計5社の企業と石川県庁を訪問した。企業訪問ではそれぞれの経営理念や事業内容、課題などを伺った後、会社の方々と質問応答を行った。参加者はそれを元に、各社での話を振り返り、意見交換と発表を行った。まとめの中では今後の石川県の展望を含めた企業への課題解決の道筋提案を考えることとなり、企業で求められる視野の広さ、深さに驚きつつも、「シゴト」について掘り下げる貴重な機会となった。また、参加学生の提案したキャッチコピーが新卒採用ページで使われたことも良い経験となった。

日　　程：2017/9/11(月)-9/15(金)
参加学生：4名
活動場所：石川県金沢市・七尾市・白山市
備　　考：株式会社御祓川　http://notoryugaku.net/

石川県庁前にて

株式会社 御祓川にて

## 24. 誰も知らない京都を作り出せ！～東大生しかつくれない旅行プラン@KYOTO～(東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト)

観光地・京都で新たな価値を創造している人々を見つけ、その方々にアポイントを取って価値創造への想いや経緯についての話を伺った。観光地と一口に言えども、そこに暮らす人々や観光に携わる方々の意見は様々であり、中でも寺院の観光地化についての賛否など、旅行だけでは決して聞くことのできない京都の一面を多々知ることになった。そうして自身が今まで持っていた「京都」のイメージが新たに塗り替わるほどの大きな刺激を得た。

日　　程：2017/8/21(月)-8/26(土)
参加学生：2名
活動場所：京都府・株式会社のぞみ、他
備　　考：株式会社のぞみ
http://www.nzm.jp
東京大学三四郎会
http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/

お茶を新たな切り口で商品に

## 25.「好き」だけで終わらせない！～自らの手でファッションの未来を創ろう～（東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト）

「ビジネスとしてのファッション」を知るため、日本を代表する若者向けアパレル企業2社にてそれぞれ1週間ずつの業務体験を行った。アパレル業務のおおまかな流れについて伺ったあと、営業会議やマーチャンダイジング会議へ同席する機会を設けていただき、販売促進やマーケティング戦略の一端について学び、最終日にはまとめとして新規ビジネスを提案した。2社のそれぞれの違いや雰囲気、ファッション業界で働く方々のモチベーションに直に触れることができた貴重な機会となった。

日　　程：2017/8/28（月）-9/1（金）、9/11（月）-9/15（金）
参加学生：2名
活動場所：株式会社Stripe International、株式会社オンワード樫山
備　　考：東京大学三四郎会
http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/

## 26. 将来のライフイベント（結婚・出産・育児）をリアルに考える～キャリアプランのみが将来図ではない！（東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト）

キャリアプランの中でも何に焦点をあてて活動を行うかを参加学生間で話し合い、共働き夫婦の子育て事情についての課題を探ることになった。3社で研修を受ける中で、子育て応援フェアへのイベント参加やポスティングを通じた子育て支援事業について、またその課題について考えたり、子供がいる家庭を訪問して、親御さんに育児・仕事の両立の実際について伺った。家庭構築の実情に触れる一方、育児中の女性起業セミナーに参加し、多様な働き方の必要性についてディスカッションを行った。

「家族留学」

日　　程：2017/8/16(水)-8/22(火)
参加学生：2名
活動場所：東京都内
備　　考：東京大学三四郎会、株式会社AsMama
一般社団法人日本ママ起業家大学、株式会社manma

## 27. 未来の働き方を考えよう！働き方改革に取り組むチームでその最前線を学ぶ （東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト）

より良い働き方を目指してイベントを行っている一般社団法人Work Design Labのメンバーと一緒に働き方改革についてのイベントの企画・運営を行った。イベント開催にあたり、テーマ設定、ゲスト探し、会場探しなどを協力して行う中で企画運営のノウハウを積むことができただけでなく、参加学生がイベント内で司会進行などを担い、「介護離職」をテーマに組織の中での働き方について参加者とともに模索した。

イベントゲスト・スタッフの皆様と

日　　程：2017/8/9(水)-9/20（水）のうち12日間(連続でない)
参加学生：2名
活動場所：東京都内
備　　考：一般社団法人Work Design Lab
http://work-redesign.com/
東京大学三四郎会
http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/

## 28. 仏教界の先進的な取り組み（マインドフルネス等）と現代社会における役割について学ぶ就労体験（東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト）

本学人文社会系研究科教授、蓑輪顕量氏の事前講義を受けたのち、蓑輪教授が主催する、千葉県夷隅郡の寺院での合宿で指導を受けながら、一日6時間の座禅・瞑想体験を行った。2泊3日の間は菜食、早寝早起き、他参加者との交流を通して穏やかな時間の流れを感じる貴重な機会となった。続いて本学卒業生の僧侶、藤田一生氏の主宰する仏教塾において、時代に合った仏教観の構築の必要性についての講演を拝聴した。

日　　程：2017/8/18（金）-8/20（日）、9/23（土）
参加学生：1名
活動場所：東京都内、千葉県夷隅郡大多喜町　麻綿原妙法生寺
備　　考：藤田一照氏事務所 http://fujitaissho.info/
東京大学三四郎会 http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/

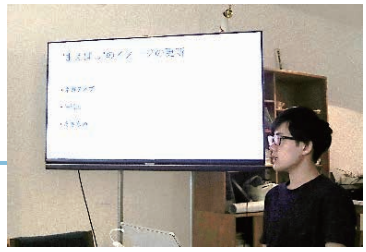
仏教座禅合宿

参加者での菜食の朝食

## 29. 美術館で町おこし！芸術文化で地域を盛り上げよう@アーツ前橋（東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト）

前半は、開館して4年になる前橋市の芸術文化施設アーツ前橋にて収蔵庫や発行物の整理、作品の取り扱いや保管・修復について学芸員実習の一部を体験し前橋市中の文化活動を支える前橋まちなかエージェンシー（MMA）の方々とアーツ前橋の開館の経緯やまちづくりの一環である地域アートプロジェクトについて説明を受け、実際にイベントに携わった。個展の味わい方を知って作品により近づけただけでなく、地元と文化施設との協同によるまちづくりの重要性という新たな視点を得ることができた。

日　　程：2017/8/17（木）-8/23（水）
参加学生：2名
活動場所：群馬県前橋市
備　　考：アーツ前橋 http://artsmaebashi.jp/
前橋まちなかエージェンシー https://www.machinaka.agency
東京大学三四郎会 http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/


プレゼンテーション

スタッフの皆様と

## 30. 犯罪被害者支援に関する事業の実施

全国被害者支援ネットワークで組織概要、犯罪被害者支援の歴史、業務概要などについて研修を受けた後、都民センターで犯罪被害者支援の業務説明を受けたり、検察庁を訪問したり、東京地方裁判所で公判を見学した。また、弁護士から講義を受けた。犯罪被害者支援の実態を学び、これからの支援のあり方や将来の目標についても考える貴重な機会となった。

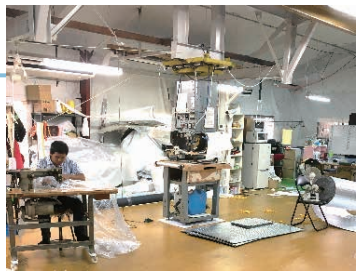
日　　程：2017/8月-12月、各自定められた日程
参加学生：4名
活動場所：公益社団法人　全国被害者支援ネットワーク
備　　考：全国被害者支援ネットワーク
http://www.nnvs.org/

## 31. 自殺予防事業を実施するNPOの事務局としての活動

週1～2回　10ヶ月にわたり、予防事業を実施するNPO法人OVAのオフィスで1回2時間程度の事務局の仕事に従事した。情報収集や資料作成を行い、団体の企画の参照情報として採用された。NPO法人の仕組み、社会問題など、はじめてのことを多く学ぶことができた。自分と社会の関わりについても考える機会になった。自殺予防という今まではどこか他人事だったことが、自分や自分をとりまく社会の問題であることを改めて認識した。

日　　程：2017/7月-2018/3月
参加学生：1名
活動場所：東京都内
備　　考：NPO法人OVA　http://ova-japan.org/

## 32. 挑戦者求ム！愛知の老舗ものづくりメーカーで挑む廃材活用新ビジネス


作業所

名古屋でテント事業を営む中小企業にて、端材を活用した新規事業立案を行なった。その過程で町工場へ足を運び、生産工程についてヒアリングを行い、実際の業務を体験しながら、会社の事業環境を深く学んだ。地元の大学生をインターン生として活用しながら事業の多角化を推進し、新しいことに次々と取り組む姿から、長期的な収益を優先し、事業の社会貢献を意識した経営を学んだ。

日　　程：2017/8/28(月)-9/8(金)
参加学生：1名
活動場所：株式会社丸八テント商会本社(愛知県名古屋市)
備　　考：丸八テント商会インターン　http://internship-08.com/
　　丸八テント商会HP　http://www.08tent.co.jp/

## 33. 加賀温泉郷まるごとキャンパス体験

伝統工芸体験

温泉めぐり

加賀市の観光振興への提案を行うために、実際に加賀温泉郷(山中、山代、片山津)や里山風景の残る橋立集落を訪れ、温泉入浴や蕎麦打ち、九谷焼制作などの体験を行った。行く先々でそれぞれ温泉、旅館経営、伝統工芸、加賀市の観光戦略について携わっている方々から講義形式で直接お話を伺い、それぞれの意見や取り組みを通して加賀市の抱える課題への理解を深め、最終日は加賀市観光戦略課の職員の方々と意見交換を行なった。

日　　程：2017/8/7(月)-8/10(木)
参加学生：7名
活動場所：石川県加賀市
備　　考：加賀市　https://www.city.kaga.ishikawa.jp/

## 34. カンキツの収穫・販売体験から中山間地域の底力を考える

期間中は江田島市の柑橘農家にホームステイの形で滞在させていただいた。摘果、調整、収穫した柑橘のサイズ選別と出荷、それに伴う販促などの本格的な果樹作業を通して果樹農家の生活と柑橘栽培の実際を体験することができた。併行して複数の耕作放棄地や圃場を見学し、農地の維持の大変さと耕作放棄地の再利用についてのアイデアを伺った。また地元の特産品である芋を利用した商品開発を行う経営者や、近年江田島に移住された地域おこし協力隊の方々との作業やお話を通して、地域の魅力の発信方法とその担い手の方の意欲的な実践に触れることができた。

日　　程：2018/3/17(土)-3/21(水)
参加学生：1名
活動場所：広島県江田島市
備　　考：ファーム竹本
　　https://sites.google.com/site/farmtakemoto

収穫時にファーム竹本の皆様と

江田島市の方々からお話を伺う

## 35. 地方創生の最先端地に学ぶ-ITとアート 徳島県神山-

神山町地方創生の成功の背景を探るため、活性化のキーパーソンによる講演を聞き、農家やNPO、役所、移住者などに取材をし、最終日にプレゼンテーションを行った。様々な人達へのインタビューを通し、「地方創生の成功例としての神山町」だけでない、住民間に生じている問題点も発見する事ができた。更に、様々なプロジェクトが動き出している神山町の躍動感や、地元住民の生の声など、本では伝わらない部分を感じ取ることができた。

日　　程：2017/9/12(火)-9/16(土)
参加学生：5名
活動場所：徳島県神山町
備　　考：神山町NPOグリーンバレーHP
　　イン神山　http://www.in-kamiyama.jp/

取材と農作業

3Dプリンターでの工作

## 36. 聖地熊野の歴史文化と自然を体験しつつ、新宮市の文化行政を学ぶ

熊野三山の社寺、山伏の方を含めた新宮市の方と交流しつつ、山小屋の維持管理や大峰奥駆道での修行を体験したり、熊野古道を歩いて熊野本宮大社を訪れた。信仰、宗教、歴史、自然、環境保全等について知見を得て、理解を深めた。また、新宮市の文化行政について学び、地域活性化など地方都市の課題考察に取り組み、地域貢献について考える機会を持った。

日　　程：2017/8/31(木)-9/3(日)
参加学生：9名
活動場所：和歌山県新宮市、那智勝浦町、紀伊田辺市
備　　考：東京大学大学院人文社会系研究科　http://www.l.u-tokyo.ac.jp

山伏の方からの説明

熊野登山

## 37. 文化ワークショップを基本とした過疎・高齢地区のまちづくり体験プロジェクト

北海道富良野市において、市の委託事業「ふらのみらいらぼ」によるワークショップの運営補助に参加した。このワークショップは地域住民の交流を目的に開催されており、全年齢間での交流が活発に行われている。最初に富良野市内を巡り、施設や地理的な面から市内の状況を説明いただいたあと、富良野産の食材を用いた調理やラジオの公開収録、ジオラマ製作などを通して市内在住の方々から話を伺った。大学のない市ながらも、活発な文化活動に魅力を覚えた若い人材の流入がある点も印象に残った。

日　　程：2017/9/1(金)-9/4(月)
参加学生：3名
活動場所：北海道富良野市
備　　考：ふらのみらいらぼ
　　http://www.city.furano.hokkaido.jp/docs/2016040800010/

地元の小学生と富良野産食材の調理

地域の皆様とラジオ収録

## 38. 再エネで地方を元気にする地域エネルギー系ベンチャー企業でのインターン@東北

再生可能エネルギー事業を行うベンチャー企業でのインターンを通し、エネルギー問題、地方が抱える課題を総括的に学んだ。インターンとして、調査、事務作業、現地訪問、打ち合わせなどに携わり、企業体験をすると共に、企業が取り組んでいるソーラーシェアリングなどのエネルギービジネスについて知識を得た。また、法律や補助金問題が課題と深く関連していることを学んだ。

日　　程：2017/8/2(水)-8/10(木)、8/21(月)-9/1(金)、9/4(月)-9/15(金)
参加学生：3名
活動場所：岩手県・宮城県
備　　考：サステナジー株式会社　http://sustainergy.co.jp/

エコハウスサポートセンター

太陽光発電と日陰利用キクラゲ栽培

## 39. おじゃり申せ種子島！　宇宙に最も近いディープな島まるごと体験プログラム

鹿児島県の離島　種子島で歴史や行政を学んだ。地域の方と交流し、島の様々な産業を手伝い、豊かな自然と共にある暮らしを体験した。種子島は、ロケットの発射基地があることでも知られており、「スマートエコアイランド種子島」構想を推進している。こうした最前線のプロジェクトも学んだ。島の人々との温かなふれあいを通して知見を広げ、新たな自分の可能性を発見する機会となった。

日　　程：2017/8/7(月)-8/21(月)、8/17(木)-8/28(月)
参加学生：20名
活動場所：鹿児島県西之表市
備　　考：種子島観光協会ホームページ　http:/tanekan.jp
　　西之表市役所ホームページ　http://www.city.nishinoomote.lg.jp

事前オリエンテーションの様子

## 40. 学術成果の国際発信を現場で体験：あなたも UTokyo Research 編集部の一員に！

記者会見に参加

UTokyo Voicesの記事を読み、プロモーション動画の題材となる写真の選定や動画中のスクリプトを決め、動画を作成した。UTokyo Researchの記事も、YouTubeなどで公開する準備段階を経験した。また、東大全体の広報に使う新メールマガジンのコンテンツや運用についても、プレゼンテーションを行った。UTokyo Researchというメディアに触れ、大学での広報の意義を理解し、活動を通して様々な研究分野を知る機会となった。

日　　程：2018/2月、各自定められた日程
参加学生：2名
活動場所：本郷キャンパス・東京大学本部広報室
備　　考：UTokyo Research（日本語）
http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/utokyo-research/
UTokyo Research (English)
http://www.u-tokyo.ac.jp/en/utokyo-research/

## 41. プラチナ大賞・総務大臣賞受賞のベンチャー都市雲南中山間地域行政を考える

稲刈り体験

他大学のインターン生と

雲南市の事業の一つである、UCC事務局における新たなプログラムの開発を目的に、インターンシップを行った。雲南市では、行政とNPOが協同して様々な施策に従事している点がとても新鮮で、明確な目的のためにクリエイティブな施策を考えることが要求された。雲南市に関わる人達は、明確な将来の構想を持っていて、それが強い原動力になっていることを学んだ。

日　　程：2017/8/28（月）-9/15（金）
参加学生：1名
活動場所：島根県雲南市　市役所ほか
備　　考：UCCプロジェクト　http://www.co-unnan.jp/sp-ucc.php

## 42. 農業・牧場作業体験＠北海道

競売にかける牛のブラッシング

かぼちゃの収穫

北海道美深町の農場・牧場で、農作業や牧場作業を体験した。農業体験では、絹サヤ・スナップエンドウ・かぼちゃなどの収穫、運搬、出荷準備などを行った。牧場では、牛や羊の餌やり、搾乳、放牧、出荷羊の体重測定、爪切りなどを体験した。また、滞在中にクラフトビールフェスタが開催され、その会場設営の手伝いや販売のレジ作業などを行い、地域の運動会では真剣に競技に取り組む地域の方々と一緒に参加した。最終日には、カヌーやトロッコなど美深町の魅力を堪能した。

日　　程：①2017/8/21（月）-9/1（金）、②9/4（月）-9/15（金）
③2018/3/5（月）-3/16（金）
参加学生：6名
活動場所：北海道中川郡美深町
備　　考：美深町　http://www.town.bifuka.hokkaido.jp/
美深観光協会　http://www.bifuka-kankou.com/
松山農場　http://mf.tarupon.com/

## 43. どっぷりディープな農業・漁業体験（DDNG）

青森県深浦町で、農作業の手伝いと見学を行った。トラクターによる畑の耕作やトマトの共同選果場の見学、ビニールハウスでのキュウリやミニトマトの収穫、あおもり藍の畑の除草や収穫等の作業を経験した。農作業の合間には、日本海、白神山地、五能線や十二湖など観光資源の魅力に触れた。加工場訪問では、農作物の生産から加工、流通と六次産業の過程を学んだ。一方、人口減少や少子高齢化が進む過疎地域の実情を目の当たりにした。

日　　程：2017/8/19（土）-9/2（土）
参加学生：2名
活動場所：青森県深浦町
備　　考：青森県深浦町　http://www.town.fukaura.lg.jp/index.html

稲穂の不稔確認

深浦マグロの水揚げ体験

## 44. 花巻市大迫町でトライアルステイ ～ぶどう栽培体験から考える課題解決の突破口～

ブドウ栽培に関わる様々な工程を体験した。8月には、余計な実を落とし枝の形を整える整房作業や、熟す前の実を風雨から守り、実の表面から粉が吹かないようにする袋かけの作業、余計な枝を切り落とす副梢切りの作業などを体験した。9月には、収穫や梱包、ワインの仕込みや、集荷作業などを行った。また、体験活動を通して見出した地域課題についての提言を町役場の職員の前で発表し、日本の地方創生という課題について、当事者意識を持つようになった。

日　　程：2017/8/1（火）-8/7（月）、9/12（火）-9/18（月）
参加学生：1名
活動場所：岩手県花巻市大迫町
備　　考：オーストリア・ウィーン国際ワインコンクール2015受賞報告
　　http://www.edelwein.co.jp/

ぶどうの収穫

ワインの仕込み

## 45. 食のまちづくり体験プログラム@福井県小浜市

地方が取り組むまちづくりを、福井県小浜市の“「食」を中核としたまちづくり”に学んだ。小浜市が取り組む食育事業に参加し、キッズキッチン等で地元の方とふれあいながら、食の大切さを学んだ。漁業体験や林業体験を通し、自分で釣った魚をさばいて食する、食器を作る等の数多くの体験活動を行った。地域の強みを生かしたまちづくりのあり方を考察した。

日　　程：2017/8/19（土）-8/22（火）
参加学生：4名
活動場所：福井県小浜市
備　　考：福井県における希望学調査の成果をまとめたエッセイ紹介
　　https://www.utp.or.jp/book/b306553

宿泊先にて

投錨作業

## 46. 中山間地域を見る・感じる・考える～北海道鷹栖町で、今後の中山間地域・地方創生について考えよう

暮らしを体験したり、町の人々との交流を通して、中山間地域の実情を知り、地域の課題を考えた。農業体験では、町内の農家で特産のトマトの収穫作業を行ったり、簡単な作業を行った。町の取り組みを理解するため、加工施設、社会福祉協議会、保育園、ホンダテストコースなどの施設を見学した。お祭りに参加するなどの活動を通して、地元の方々と交流を深めた。地域を盛り上げることや課題について、町長や町役場職員の方とお話をしたり、研修等で滞在している方々と意見交換をした。

日　　程：2017/8/25(金)-8/31(木)
参加学生：4名
活動場所：北海道鷹栖町
備　　考：https://www.town.takasu.hokkaido.jp/

鷹栖町のご家族と

林業

## 47. 都内でも農林作業フィールドワーク体験

田無演習林にて、前半は、桃やぶどうの剪定や収穫、水田の昆虫調査、ドローンによる耕地データの収集などを行った。後半は、稲の様々な品種について解説を聞きながら観察し、稲刈りや里地里山試験地の調査を体験し、農業・林業・自然保護の現場の一端を知ることができた。農村と都市の間に里地を置くことで生態系や文化を守ろうとしていることも新たに学んだ。

日　　程：2017/8/2(水)、23(水)、9/20(水)
参加学生：2名
活動場所：東京大学農学生命科学研究科附属生態調和農学機構・田無演習林
備　　考：東京大学農学生命科学研究科附属生態調和農学機構
http://www.isas.a.u-tokyo.ac.jp

稲狩り体験

コンバインを用いての稲刈りの実演

## 48. 生産者と消費者をつなぐ食べものつき情報誌「食べる通信」コーディネーター

岩手県花巻市を拠点に東北各地に出向き、農業や漁業を実際に体験したり、生産者にインタビューを行った。普段顔がみえない「生産者」と「消費者」をつなげる活動を通して、「食べる」「生産する」という意味を改めて考えたり、諸問題について考察した。また、いろいろな人と話をしたり、日程を調整するなどの実務的な能力を鍛えることができた。

日　　程：2017/8/4(金)-8/20(日)、8/22(火)-9/5(火)、2018/2/22(木)-3/2(金)
参加学生：3名
活動場所：岩手県花巻市を拠点に東北各地の生産現場
備　　考：東北食べる通信　https://tohokutaberu.me
NPO法人東北開墾　https://kaikon.jp

小石浜にてホタテの水揚げ

## 49. 搾乳・乗馬・トラクター運転等を体験しながら肉の生産過程を知ろう

附属牧場では、えさやりや豚の体重測定、厩舎の掃除、搾乳等の畜産酪農の他、乗馬やトラクター、ショベルカーの運転を体験した。実際の酪農家の見学では、乳牛の生産過程や養豚産業の経営を学んだ。疑問点は積極的に質問し、酪農家は海外の情報を常に取り入れ、経営に積極的に生かそうと努力している現状を深く学んだ。

日　　程: 2017/8/7(月)-8/9(水)
参加学生: 3名
活動場所: 茨城県笠間市 東京大学附属牧場
備　　考: 附属牧場　http://www.bokujo.a.u-tokyo.ac.jp/

乗馬体験

子豚の体重測定

## 50. 癒しの森の森林管理～おじいさんは山へ柴刈りに～

夏の活動では、枯れ枝や枯れ草を集め、演習林内の巡検や、芝刈り機で芝を刈ったり、薪割りをし、森林管理の一端を担った。林内の景観は、人が苦労して森林管理を行うことで維持されているということを学んだ。冬の活動では落ち葉を集め、地域の皆さんと落ち葉焚きをし、多くの人々とかかわり、協力して一つの作業に取り組むという大切さと楽しさを体験した。

日　　程: 2017/9/4(月)-9/6(水)、12/23(土)-24(日)
参加学生: 1名
活動場所: 山梨県南都留郡　東京大学附属演習林富士癒しの森研究所
備　　考: 富士癒しの森研究所
http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/fuji/

薪割り

落ち葉焚き

## 51. 森が社会に貢献する－持続可能な森づくりへの挑戦－

オリエンテーションでは、スノーシューで歩く練習をし、安全面での指導を受け、林種区分・区画測量では、GPSの受信機でポイントデータをとり、そのデータをArcGISというソフトに取り込み、林種区分の地図を作る作業を行った。伐採が可能と判断された木と、実際に業者が伐採した木を照らし合わせる伐採監護では、伐根に刻印を打つ作業を体験した。樹木を樹皮で見分けられるようになり、林分施業法についての理解を深めた。

日　　程: 2018/2月-3月、各自の日程
参加学生: 3名
活動場所: 北海道富良野市
備　　考: 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林
http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/hokuen/

伐採監護

林分区画測量

## 52. 海のフィールドワーク体験活動

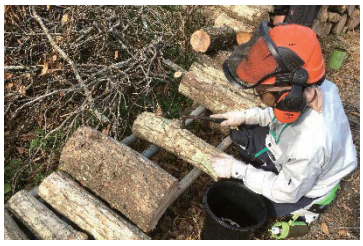
埼玉大学の臨海実習に参加し、ウニの発生の観察、採取室から持ってきた海の生物の観察などを行い、海洋生物の生態を学んだ。埼玉大学の先生や学生との交流を通じ、横の繋がりの重要性を意識するきっかけになった。また、大学院理学系研究科附属臨海実験所(三崎臨海実験所)では、学生および一般市民を対象とした教育活動を行っており、プログラム運営やボランティアを行う上の参考となった。

日　　程: 2017/8/7(月)-8/9(水)
参加学生: 1名
活動場所: 神奈川県三浦市 東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所
備　　考: 東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所
http://www.mmbs.s.u-tokyo.ac.jp/

## 53. 伊豆の体験活動　ー南伊豆というー地域との連携に学ぶー

10月の活動では、獣害を視察後、駒場祭で提供するイノシシ肉の燻製ソーセージを製造した。解体されたイノシシ肉を骨から剥がし、ソーセージを作る作業は充実感があり、通常は工場生産で目に触れることのない食品の製造は、加工品に対する理解を深めてくれた。3月の活動では、シイタケの菌打ちやチェーンソーでの伐倒を体験し、林業について真摯に向き合うきっかけとなった。

チェーンソーでの玉切

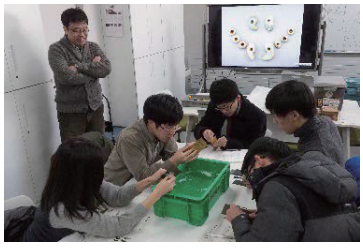

シイタケの菌打ち

日　　程: ①2017/10/7(土)-10/9(月)、②2018/3/24(土)-3/26(月)
参加学生: 2名
活動場所: 静岡県南伊豆町近郊
備　　考: 樹芸研究所　http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/jyugei/

## 54. 北海道の遺跡博物館における学芸員体験と冬のオホーツク文化体験

東京大学大学院人文社会系研究科の常呂実習施設でガラス乾板の資料整理実習の手ほどきを受けたり、模擬解説実習での専門的な展示を人に分かりやすく解説する工夫を見せていただく中で考古学に携わる先生方の研究への情熱に直に触れ、感銘を受けた。また、オホーツク海から流氷を望む機会にも恵まれたり、丁度行われていた冬季オリンピックのカーリングで沸く市内を訪れたり、市民の方々との夕食を交えたお話などを通して、先史から現代まで厳しい気候の中で営まれてきた常呂の人々の生活に思いを馳せる体験となった。

熊木先生と


勾玉作り

日　　程: 2018/2/20(火)-2/23(金)
参加学生: 4名
活動場所: 常呂実習施設、北見市ところ遺跡の森 (北海道北見市)
備　　考: 東京大学大学院人文社会系研究科 常呂実習施設
http://www.l.u-tokyo.ac.jp/tokoro/index.html
北見市 ところ遺跡の森
http://www.city.kitami.lg.jp/docs/7209

## 55. 地域イイトコ発見プロジェクト ～フィールドワークから学ぶ地域の健康～

コテージで仲間と集団生活をし、地元住民のお宅の訪問や地区散策を通して地域の「イイトコ」を発見していった。高齢者や幼児の集会や地区のイベントにも参加し、地域づくりの観点から健康増進・地域医療について学んだ。最終日には、発見した「イイトコ」の中で特に伝えたい発見を抽出してまとめ、発表した。仲間や地域の方々との交流を通して、人と人の繋がりの大切さを再認識し、人間として成長できた中身の濃い10日間であった。

日　　程：2017/9/5(火)-9/14(木)
参加学生：3名
活動場所：島根県雲南市
備　　考：雲南市　http://www.city.unnan.shimane.jp/

地区住民のお宅訪問

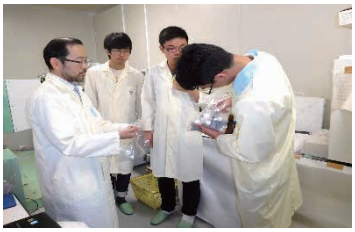
地域の皆様と

## 56. 被災地福島の農業と環境放射能を知るツアー

原発事故による放射性物質の放出が福島に与えた影響を、現地視察と放射線測定体験から考察した。被災地の視察では、飯舘村を訪れ、除染作業などの取り組みを視察すると共に、土壌のサンプルを採取した。また、現地の住民の方々のお話を聞いたり、食品の放射線スクリーニング施設を見学した。採取した土壌やキノコなどのサンプルの放射線量を測定し、未だ高い数値がでることを自分の目で確認した。現地の実情に触れ、被災の実態と今後の課題について、深く考える機会となった。

日　　程：2017/7/31(月)-8/1(火)
参加学生：3名
活動場所：福島県、東京大学大学院農学生命科学研究科
備　　考：AGRI－COCOON　http://www.agc.a.u-tokyo.ac.jp/wp/fg6/

土壌サンプル採取



土壌サンプルの放射線量測定

## 57. 矯正施設の現状と課題：　府中刑務所フィールドツアー

人がなぜ犯罪を犯すのかを具体的な事例と研究をもとに考察し、それを踏まえた上で刑務所を見学して現在の刑事政策を知り、これからの刑事政策を考える活動となった。初日は永山事件について被告の人生の背景から勉強し、永山が犯罪に至るまでの心境について考察した。二日目は実際に府中刑務所を見学し、質疑応答を行った。三日目は精神障害者に関わる刑事政策と刑事訴訟全般について勉強した。懲役刑・禁錮刑の執行が具体的にどのように運用されているのかを、自分の目で確かめることができたのは、非常に有意義であった。

日　　程：2018/2/21(水)-2/23(金)
参加学生：8名
活動場所：府中刑務所（東京都府中市）
備　　考：府中刑務所
http://www.moj.go.jp/KYOUSEI/KEIMUSAGYO/sagyo/sisetu_fuchu.html

府中刑務所

府中刑務所内での質疑応答

## 58. 保育園を拠点とした地域づくり:「まちの保育園」の取り組みに学ぶ

展示発表

実践観察に訪れる前に事前活動として保育政策・保育実践に関する資料に当たり、調査を行った。その上で「地域に開かれ、地域と共にあること」を目指して新しい取り組みを行っている「まちの保育園」と呼ばれる認定保育所・認定こども園4ヶ所を訪れて、参与観察を行った。参与観察の中で行った園長や職員へのインタビューを通して学んだことについて発表を行い、活動のまとめとした。

日　　程: 2017/8月-12月
参加学生: 1名
活動場所: 東京大学本郷キャンパス、保育園(小竹向原、六本木、吉祥寺など)
備　　考: 東京大学発達保育実践政策学センター
http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/
まちの保育園　https://machihoiku.jp/

## 【海外プログラム】

### 01. 中国訪問＋キャンパスツアーと学生交流

企業訪問では、Mobikeや滴滴、清成教育といったここ数年で急激に力を伸ばしてきた現地のベンチャー企業や日本の大手商社三井物産、政府系の銀行である政策投資銀行、日本大使館、法律事務所など幅広い分野で話を伺った。中国のスタートアップのもつ勢いや熱さ、中国国民の自信や先進的な金融・IT技術の普及など、今現在のリアルな中国を知ることができた。自国を盲目的にスタンダートして考えるのではなく、世界との比較の中でその立ち位置や長所・短所を的確に理解することの重要性を改めて認識した。

日　　程：2018/3/7(水)-3/16(金)
参加学生：10名
活動場所：中華人民共和国　北京、上海
備　　考：東大北京校友会・上海銀杏会
http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/community/list.html

三井物産

清華大学生との交流

### 02. 上海および上海近郊の地方都市を中心とした国際交流体験活動

企業訪問、卒業生や現地大学生との交流、観光などを通し、日本のメディアからは到底知ることのできない中国の様々な側面を垣間見た。ここ数年での大きな変化の一例であるインターネット決済や交通インフラ(シェア自転車、快適な高速鉄道)は日本の数歩先を行き、都市では、経済発展を象徴するような高層ビル群と変化から取り残されたままの住居や商店が同居していた。日本の社会の特徴、文化、慣習や日本人の考え方を改めて客観視する機会となった。

日　　程：2018/3/6(火)-3/16(金)
参加学生：10名
活動場所：中華人民共和国　上海と近郊
備　　考：上海銀杏会・東大北京校友会
http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/community/list.html

映像制作会社「和の夢」の皆様と

南京師範大学生との交流

### 03. 大学・企業・文化体験 in 韓国 -韓国を知る、韓国から日本を見る-

ソウル大学の学生との交流では、お互いの関心事、音楽や芸能、文化、食習慣や社会問題まで、幅広くプレゼンテーションを行い、討論を通して相互理解と親睦を深めた。韓国と北朝鮮との境界にあるDMZ訪問では、韓国が現在置かれている状態について学び、その緊張状態を肌で感じた。古里原発の訪問では、原発技術や政策について学び、原発内部も見学することができた。また、ホームステイでは、文化や食生活に触れ、家族での過ごし方など韓国の一般家庭の生活を体験する貴重な機会となった。

日　　程：2017/8/22(火)-8/30(水)
参加学生：9名
活動場所：大韓民国　ソウル、ウルサン
備　　考：韓国東京大学総同門会、ソウル東大会
http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/community/list.html

ソウル東大会の皆様と

ホームステイ先にて

## 04. シンガポールでビジネスを学んでみよう

オリエンテーション後の食事会

OKAMURA International (Singapore)

東大OB・OGが在勤の銀行、商社、法律事務所、コンサルティングファームなど18社を訪問し、日系企業がシンガポールで事業を展開する魅力や苦労を伺った。在シンガポール華人の商工会議所やモスクも訪問し、多民族が共生するシンガポールの理解を深めた。また、シンガポール大学では、研究環境やキャリアに至るまで、研究者から生の声を伺うことができた。最終日には、プログラムを通して学んだことを発表し、OBの方々との交流では、自己の見識を深める機会となった。

日　　程：2017/9/9(土)-9/17(日)
参加学生：8名
活動場所：シンガポール
備　　考：淡星会　http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/community/list.html

## 05. 医学と平和

WHO事務所

ポルポト時代の収容所

カンボジアでは、1970年代の紛争で多くの人命が失われ、保健制度など国の諸制度が崩壊した。ツールスレイン博物館では、ポルポト政権下で行なわれた虐殺や破壊の歴史を学んだ。病院では医療の実情について話を伺うとともに、結核が大きな問題であることを知った。WHO訪問、農村の視察、地雷撤去現場の見学、インフラや学校の整備状況の視察などを通して、現在のカンボジアの姿を体感した。

日　　程：2017/8/3(水)-8/9(火)
参加学生：5名
活動場所：カンボジア　プノンペン近郊
備　　考：東京大学大学院医学系研究科国際地域保健学教室
　　http://www.ich.m.u-tokyo.ac.jp/

## 06. カンボジア　教育系グローカルインターンシッププログラム

プログラムの前半では、教育関係者や大学生に話を伺ったり、農村を訪問するなどの活動を行い、カンボジアの抱える教育問題について知識を得た。後半の活動では、前半の経験を踏まえて、カンボジアの教育問題について、グループワークやディスカッションを行った。都市部と農村部の違い、歴史、現地の人々の考える将来像などを実際に見聞きし、総合的に考察する機会となった。

日　　程：2017/8/3(木)-8/10(木)
参加学生：5名
活動場所：カンボジア　プノンペン
備　　考：東京大学カンボジア同窓会
　　https://utokyocambodia.wordpress.com/

## 07. 新興国インドでの体験活動-インド赤門会との交流・IIT-K 日本語授業サポート-

前半は、タージマハルや博物館を訪問してインドの歴史や文化を学び、また、JICA訪問や卒業生との交流を通して、インド駐在員の仕事やインド政府の特質、インド人の価値観などについて見聞を広げた。後半は、インド工科大学に滞在し、日本語クラスに参加したり授業を受講した。日本語クラスでは自国についてプレゼンテーションを行い、お互いの文化を共有し理解を深める貴重な体験となった。

日　　程: 2018/3/4(日)-3/11(日)
参加学生: 6名
活動場所: インド　ニューデリーと近郊、インド工科大学 Kanpur
備　　考: インド赤門会
http://www.indiaoffice.dir.u-tokyo.ac.jp/jp/akamonkai/index.html
東京大学大学院工学系研究科日本語教育部門
http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/

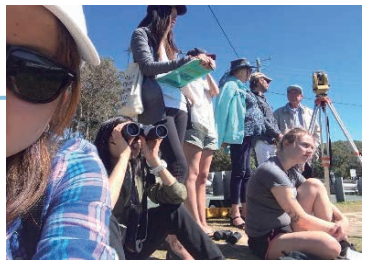
IIT-Kゲストハウス

IIT-K日本語クラスの学生との交流会

## 08. Healthy Humpbacks（ザトウクジラの健康調査）

オーストラリア　モートンベイで、小舟で海に出て6時間ほどクジラを捜索し、緯度・経度、群れの大きさ、クジラの大きさ、行動パターン、潜水時間を記録した。ハイドロフォンを用いクジラの鳴き声を観測し、群れ同士が連絡を取り合う様子を確認した。また、地上からの調査として小高い山の上にカメラを設置し、双眼鏡で単位面積当たりに存在するクジラを計測した。研究室で行う実験とは異なり、実地調査を行うことの困難さを体験した。

日　　程: 2017/8/16(水)-8/19(土)
参加学生: 2名
活動場所: オーストラリア モートンベイ
備　　考: 認定特定非営利活動法人アースウォッチ・ジャパン
http://www.earthwatch.jp/index.html



くじらの観測

## 09. TOPS (Tokyo Oxford Programme of Summer)

オクスフォード大学等の教授による、法学や古典学の講義を受けた。チュートリアルと呼ばれる学生2名と先生1名のディスカッションスタイルでの授業や、現役のオクスフォード大学法学部生によるチュータリングという、日本の大学とは異なる指導スタイルの一環に触れることができた。課題であるエッセイやプレゼンテーションの準備段階では様々な個別指導を体験し、充実した日々を満喫した。最終日のプレゼン大会の後、クライスト・チャーチでディナーを頂いた。

日　　程: 2017/8/7(月)-9/3(日)
参加学生: 15名
活動場所: イギリス　オクスフォード大学、他
備　　考: オクスフォード大学 クライスト・チャーチ
http://www.chch.ox.ac.uk/

お世話になった皆様と

クライスト・チャーチでの送別夕食会

## 10. 英国ロンドン、海外で働くとは

世界三大金融セクターを持つロンドンに拠点を構えることの必要性やそのスピード感、欧州を中心にグローバルな仕事をするやりがいなど、現場でしかわからない仕事のリアル・面白さを知ることができた。またケンブリッジ大学でのフォーマルディナーは、学生同士の新たな出会いや交流の場として貴重な経験であった。Brexit直後のイギリスで、そこで働く卒業生の話を伺えたのは非常に有意義で、30年ぶりの大雪や学校のストライキなど予想外のトラブルも起きたが、それを含めイギリスという風土を大いに楽しむことができた。

日　　程：2018/2/26(月)-3/2(金)
参加学生：10名
活動場所：イギリス　ロンドンおよび近郊
備　　考：英国赤門学友会
　　http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/community/list.html

日立レール車両基地

ケンブリッジ大学でのフォーマルディナー

## 11. VE_italia・Veneto Experience

「地図を持たずにヴェネツィアの街を歩けるようになる」ことを目標に、ディレクターの神田先生を案内人に、ヴェネツィア街歩きを通してヴェネツィア出身で日本建築にも影響を受けたカルロ・スカルパの建築物を訪れた。建築物を訪れる中で観察したこと、考えたことを発表し合う形で、お互いに思索を深めた。目標が一つだけ、またゴールや課題が無いという二週間を通じて、忙しく時間に追われがちな日本での生活を振り返り、ヴェネツィアで教わった *“piano piano”*(ゆっくり、少しずつ)の精神を感じ、自分自身を見つめ直すことの大切さを実感できた機会となった。

日　　程：2018/3/11(日)-3/25(日)
参加学生：12名
活動場所：イタリア　ヴェネト州
備　　考：Veneto Experience　http://www.venetoexperience.com/

神田先生と

アクアアルタを体験

## 12. フランスEcole Polytechniqueにおける研修(理系)

エコールポリテクニークの学生寮で学生と生活を共にしながら国際交流を行った。その傍ら、参加者の興味や希望から決定された研究所や国際機関を訪問し、専門的な話を伺ったり、そこで働く日本出身者にフランスでの働き方について尋ねる機会を得た。また「ゴミの量を減らすアイデア」というテーマを挑戦目標に掲げ、日仏混合のチームでマイコンボードからマシンを開発する24時間ハッカソンを行い、協力して一つの物を作り上げる作業を通して技術的な面でもフランス人学生の考え方に触れて深い交流体験を持つことができた。

日　　程：2018/2/11(月)-2/24(土)
参加学生：10名
活動場所：フランス　パリ、および近郊
備　　考：Ecole Polytechnique　http://www.polytechnique.edu

ハッカソン

Ecole Polytechnique 郡山先生と

## 13. スウェーデン王立工科大学(KTH)での国際交流活動体験 日本語授業サポートと企業訪問

KTHの授業への参加、日本語授業のサポート、ScaniaやIntertek といった大企業や研究室を訪問した。大学では、グループワークスタイルの、日本とは異なる形態の授業に参加したり、日本語教室では日本文化に関するプレゼンテーションを英語で行った。サイエンスハウスでは、科学者育成のための小学生向けの活動を体験し、スウェーデンにおける若年層への科学的アプローチを実感した。また、現地学生宅へのホームスティでは、異文化社会を体験し親睦を深めた。

日　　程: 2017/9/11(月)-9/18(月)
参加学生: 8名
活動場所: ストックホルムとその近郊、スウェーデン王立工科大学
備　　考: スウェーデン王立工科大学: http://www.kth.se/

日本語授業のサポート

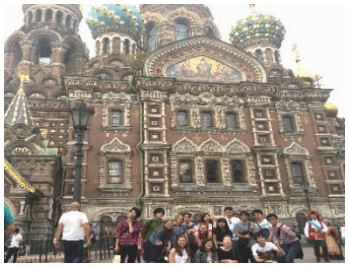
スウェーデン王立工科大学

## 14. 革命100周年・国交回復60年の隣国ロシアの今

ウラジオストクからシベリア鉄道でロシアを横断し、イルクーツクでは、木造建築や世界遺産であるバイカル湖の見学をした。モスクワとサンクトペテルブルグでは現地大学生と交流し、美術館やバレエ鑑賞など、ロシアの芸術に触れる機会を持った。また、日本大使館の訪問では、日ロの医療協力や外交水面下での情報戦についてなど、各自がかねてから関心のあった質問に対し得難い回答を得、等身大のロシアを知ることができた。

日　　程: 2017/8/4(金)-8/15(火)
参加学生: 12名
活動場所: ロシア　イルクーツク、モスクワ、サンクトペテルブルグ
備　　考: 東京大学大学院人文社会系研究科西洋史学専攻
http://www.l.u-tokyo.ac.jp/seiyoshi/

モスクワ大学


サンクトペテルブルグの学生との交流

## 15. アラブ首長国連邦の「いま」: 沸騰都市ドバイ、未来都市マスダール、石油都市アブダビ

ドバイとアブダビにある日系メーカー、石油開発企業、商社や国際協力銀行、日本大使館などの政府系機関を訪問した。また、アブダビのUAEの技術開発を担うマスダール科学技術大学(MIST)、ハリファ大学、再生可能エネルギー開発に携わる国際機関「国際再生可能エネルギー機関(IRENA)」を訪問し、現地の大学生との交流や研究者による講義を受講し、意見交換を行った。

日　　程: 2017/9/7(木)-9/16(土)
参加学生: 8名
活動場所: アラブ首長国連邦・アブダビ首長国、ドバイ首長国
備　　考: 東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻
http://www.eeis.t.u-tokyo.ac.jp/
東京大学大学院新領域創成科学研究科国際協力学専攻
http://inter.k.u-tokyo.ac.jp/

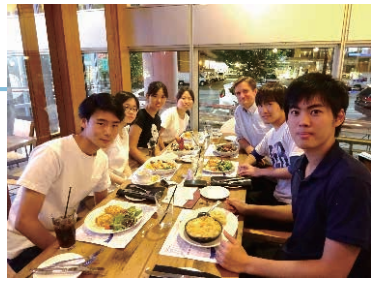
IRENA

砂漠にて

## 16. ハーバード大学医学部研究室の訪問・デスカッション

ボストンにてハーバード大学医学部や、東大OBが在勤する周辺の関係医療機関や研究室を10ヶ所以上訪問した。研究室では、先生方のキャリアや研究内容、アメリカと日本との文化や社会システムの違い、それらがどのように研究環境に影響を及ぼすのか等を伺った。実際に研究を続けている方々に直接質問をする機会が持てたことで、自分自身のキャリアを設計する上で必要なことが明確になった。

日　　程：2017/8/16(水)-8/25(金)
参加学生：6名
活動場所：アメリカ　ボストン
備　　考：ハーバード大学医学部　http://hms.harvard.edu/



ブライアン先生と

花井先生と

## 17. アメリカで仕事をすることの素晴らしさとチャレンジを、アメリカのハートランドであるシカゴと国際都市ワシントン訪問を通して多角的に探ろう

シカゴでは、総領事や大学教授、建築家など幅広い分野で活躍する先輩を訪問し、ワシントンDCではIMFやIDBなどの国際機関、シンクタンクやNGO、政府機関などを訪問した。アメリカで仕事をする魅力や困難、現在のキャリアに至った経緯、今後の展望や海外で活躍するために必要なことなど質疑応答やディスカッションを通し、日米の相違について知見を広めた。アメリカのビジネス社会は想像以上に競争社会であり、人脈の大切さを学んだ。

日　　程：2017/8/9(水)-8/15(火)
参加学生：9名
活動場所：アメリカ　シカゴ市及びワシントンDC周辺
備　　考：シカゴ赤門会
　　http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/community/list.html

プログラム参加学生

お世話になった皆様と

## 18. 国連(NY)での会議に学生ボランティアとして参加

International Longevity Centre Global Alliance の学生ボランティアとして、国連で開催された56th Session of Commission for Social Development の会議を傍聴し、2030年までの目標として国連で定められたSustainable Development Goalsで、貧困削減の指標や高齢者の貧困がどのように言及されているかレポートにまとめた。卒業生からは、キャリア選択に大きく影響する、自分自身の考え方を変えるようなアドバイスを頂き、この経験は確実に自分の人生を変えていると実感した。

日　　程：2018/1/29(月)-2/2(金)
参加学生：1名
活動場所：アメリカ　ニューヨーク州
備　　考：さつき会アメリカ
　　http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/community/list.html

国連会議

## 19. コロンビア大学所属東大卒業生の教授、研究者、学生を訪問・ディスカッション

コロンビア大学にゆかりのある、東大卒の教授、医師、弁護士、研究者や留学生などから、教育や留学、キャリア形成や研究、日本社会の展望についてなど多岐にわたる貴重な話を伺い、意見交換を行った。アメリカの大学生の勤勉な姿や、大学院生の研究分野に対する熱意は、将来設計や世界の認識の仕方に多大な影響を与えた。

日　　程：2017/9/11(月)-9/15(金)
参加学生：10名
活動場所：アメリカ　ニューヨーク州
備　　考：コロンビア大学　http://www.columbia.edu

お世話になった先生方と

合成生物学を研究している大学院生と

## 20. ニューイングランド有機農場 での Community Supported Agriculture 体験（米国）

毎日8時から5時頃まで、野菜や果物の収穫やその仕分け、雑草取り、作物の種植え、羊の移動などを行った。農場で採れた野菜や肉などを使って自炊し、夜はテントで眠った。日が沈むと共に寝て、日が昇ると同時に起きるという、人間として根源的で健康的な生活を送り、心身共にデトックスできた。大学の新入生オリエンテーションで農場体験に来ていたYale大学の学生や、在NYの東大卒業生の方々と交流する機会を持った。

日　　程：2017/8/19(土)-9/1(金)
参加学生：3名
活動場所：アメリカ　コネチカット州
備　　考：NY銀杏会　http://www.ny-ichokai.org/

農場でお世話になった皆様と

メロンの収穫の後で

## 21. オーガニック農場 での Sustainable agriculture　体験(米国)

Community Supported Agriculture(CSA)という毎年一定額を各家庭から受け取り、採れた農作物を毎週各家庭に提供するという有機農場で農作業を行った。朝7時から午後3時頃まで、野菜の収穫、除草や苗の植え替え、鶏の餌やりなどを行った。シュタイナー農法の農場を営み、有機ゴミはコンポストでリサイクルし、農場全体で物質を循環させるシステムを体験した。プリンストン大学のインターン生や、毎週火曜日のマーケットへ来るお客さんと交流する機会を持った。

日　　程：①2017/8/5(土)-8/19(土)、②8/19(土)-9/2(土)、
　　③9/2(土)-9/16(土)
参加学生：9名
活動場所：アメリカ　ニュージャージー州
備　　考：NY銀杏会　http://www.ny-ichokai.org/

ホストファミリーと

農場にて

## 22. 世界の情報発信の中心地、ニューヨークの脈動を体感してみよう

NY証券取引所や国連本部の見学、総領事館、ロイター通信の訪問のほか、コロンビア大学、プリンストン大学で学生との意見交換を行った。自主運営プログラムでは、各自が興味のある分野にアポイントを取り、幹細胞カンファレンスに参加したり、癌の研究所や創薬の研究所、ホテル、9.11記念館などを訪問し、国際都市NYの文化や躍動感を十分に体感することができた。

日　　程：2017/9/5(火)-9/12(火)
参加学生：11名
活動場所：アメリカ　ニューヨーク及びその周辺
備　　考：NY銀杏会　http://www.ny-ichokai.org/

NY証券取引所

NY銀杏会の皆様と

## 【研究室プログラム】

### 01. 再生医療の研究開発に触れる

東大病院分子イノベーションセンターにて再生医療の研究開発の現場を見学し、また細胞培養、再生組織作成を体験した。凍結したヒトの耳介軟骨細胞を解凍、培養し、マウスに移植してから、4週間マウスの体内で軟骨細胞を再生させ、外科的に取り出した。実験の過程で、ヒトの細胞をどのように分けてもらうか、個人情報保護等の観点からどのように細胞を扱うかなども合わせて学ぶことができた。

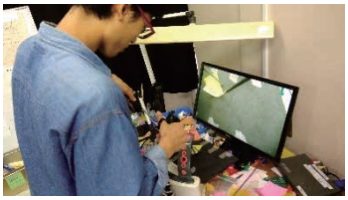
日　　程: 2017/12/4(月)-2018/1/16(火)
参加学生: 1名
活動場所: 本郷キャンパス　東大病院分子ライフイノベーション棟
備　　考: 東京大学大学院医学系研究科　軟骨・骨再生医療寄付講座
http://square.umin.ac.jp/ct-e/t-e/index.html

### 02.「医の知」に触れる－手術とは何か？体内臓器を探ってみましょう！

胃食道外科の手術室で、3日間に渡り腹腔鏡を用いた盲腸の摘出手術、食道がん、胃がん、乳癌の摘出手術を見学した。医師の解説を受けながらの見学は、臨場感溢れる生の体験で、非常に勉強になった。また、幸運にも手術補助ロボット、ダヴィンチを用いた手術も見ることができ、術者の遠隔操作を100%の精度で再現して体内を動いていく様子は圧巻であった。ロボットは術者にかかる負荷を減らし、術者が最大限のパフォーマンスを発揮できるような支援だと考えた。

日　　程: 2017/8/1(火)-8/3(木)
参加学生: 6名
活動場所: 本郷キャンパス　医学部附属病院
備　　考: 東京大学医学部附属病院　消化管外科学
http://www.h.u-tokyo.ac.jp/patient/depts/ses_md/index.html

東大病院の手術見学



手術補助ロボット「ダヴィンチ」の模擬体験

### 03. 特許・文献データベースを用いた生命科学分野の研究活動の検証

ライフサイエンス分野の学生が、ゲノム編集、再生医療といった分野で発表された論文や出願された特許群をレビューしたり、情報加工を行い、文献俯瞰ツールを用いて俯瞰するなどの作業を体験した。それぞれの関心のある研究分野について、論文をクラスター解析し、1ヶ月に1度進捗を報告した。解析を学ぶことで研究の幅を広げることにも興味をもつことができた。

日　　程: 2017/9月-2018/3月のうち3ヶ月-6ヶ月間
参加学生: 3名
活動場所: 本郷キャンパス　大学院医学系研究科
備　　考: 東京大学大学院医学系研究科　医学教育国際研究センター
http://www.ircme.m.u-tokyo.ac.jp/

## 04. 農地環境サンプルの放射性核種の検出と測定

農産物や農地の放射性物質の検出・測定を実際に行い、農地環境や測定の実態を学んだ。放射線についての基礎知識、福島の現状についての説明を受けた後、霧箱を作成し、放射線を実際に視覚としてとらえた。福島で採取した土壌サンプルを使って放射線を確認し、測定した。技術を学ぶと同時に、放射線や原子力に関する教育プログラムの必要性について考える機会となった。

日　　程: 2017/9/8(金)
参加学生: 3名
活動場所: 本郷キャンパス　農学部2号館アイソトープ農学教育研究施設
備　　考: 東京大学農学部の復興支援
http://www.a.u-tokyo.ac.jp/rpjt/index.html

## 05. 脳・身体と精神のシステム論的研究への誘い

脳科学をはじめとした科学の発展により、心と体は切っても切れない関係があることが明らかになってきた。様々な角度から心と体の諸問題に科学的に研究を進めている研究室で、実験やミーティングに参加し現場の雰囲気を体感した。自身の研究分野の興味の幅を広げたり、これからの研究分野についての参考にすることができた。

日　　程: 2017/8月、2018/3月の長期休暇中、もしくは2017/9月-2018/2月の土曜ないし平日夕方、夜など(本人と相談の上で決定)
参加学生: 6名
活動場所: 本郷キャンパス　教育学部棟
備　　考: 東京大学大学院教育学研究科　身体教育学コース
http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tkweb/

## 06. クラスター計算機の試作と並列計算

並列計算を用いた大規模な高速演算が、工学分野など様々に威力を発揮している。プログラムでは、並列計算について、ハード及びソフトの両面で学んだ。まず、Linuxパソコンやネットワークの仕様を学びながら、PCを結合し、並列計算機を作成した。それを使って、実際の演習問題にも取り組んだ。並列計算の構造など具体的な仕組みを学んだだけでなく、自身の研究分野への適用の可能性についても考察する機会となった。

日　　程: 2018/3月中の10日間程度
参加学生: 2名
活動場所: 柏キャンパス　新領域環境棟
備　　考: 東京大学大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻
奥田研究室　http://www.multi.k.u-tokyo.ac.jp/

## 07. 光学・量エレ系研究室短期体験

2週間研究室で職員、大学院生等と活動を共にし、研究がどのように行われているのかを体験した。修士学生とペアとなって補佐を行う、シュミレーションの一部を実行する、結果を分析するなどに携わった。また、様々な方との議論に参加し、議論や知識や物事を結びつける思考の大切さを実感した。研究室がどのような場所であるかを知り、進路を考える上でも大いに刺激を受けた。

日　　程: 2017/8月-9月のいずれか2週間
参加学生: 1名
活動場所: 生産技術研究所　光電子融合研究センター
備　　考: 東京大学生産技術研究所　志村研究室
http://qopt.iis.u-tokyo.ac.jp/pub/index.html

## 08. 知能移動ロボットの行動と制御

太田研究室の皆様と

知能移動ロボット

ロボットを自律走行させてゴールまで辿り着かせることを最終目標に定めて活動に取り組んだ。研究室では、前半はタッチセンサーを始めとする実験機の仕組みについて理解を深め、後半は画像認識による制御を学んだ。活動が進むにつれ、iRobot Create 2の実験機にプログラミングを行い、動作確認を施しながら微調整を重ねた。最終日には参加者間で「自律カーリングコンテスト」を行い、動作の正確さ、ゴール到達までの速さを競う中で機械制御を学ぶことができた。

日　　程: 2017/9/11(月)-9/15(金)
参加学生: 2名
活動場所: 柏キャンパス　総合研究棟
備　　考: 人工物工学研究センター　移動ロボティクス研究室
http://www.race.u-tokyo.ac.jp/otalab/index-j.htm

## 09. 水理模型を用いた津波防災堤防の実験

防災機能と湾内環境維持の両立が可能となる堤防の作成を目標として、堤防の模型作成、試験実施、データの取得と分析を繰り返した。自作堤防の模型と、現在、岩手県大船渡市に設置されている堤防とを比較して、模型堤防の津波への効果を比較した。模型の作成、実験、解析を通して堤防の構造や防災について学ぶとともに、研究室の雰囲気に触れることができた。

日　　程: 2017/9/11(月)-9/15(金)
参加学生: 1名
活動場所: 柏キャンパス　新領域環境棟
備　　考: 東京大学大学院新領域創成科学研究科　海洋技術環境学専攻
佐藤研究室
http://lemons.k.u-tokyo.ac.jp/

## 10. 環境調和型技術としての超臨界水を学ぶ

超臨界水は環境への負荷が少ない反応溶媒として期待されている。その超臨界水を利用しての実験を体験した。検量線溶液を測定後、検量線を作成し、溶液中のトルイジン濃度を定量し、その結果からトルイジン反応率と全有機炭素の転化率についてグラフ作成を行ったり、添加物によるナノ粒子の影響への考察を行った。修士課程、博士課程の学生から指導を受けながら、実際の研究環境で参加学生が全ての機器操作を行い、研究の興味深さに改めて惹き付けられた。

日　　程: 2017/9/8(金)-9/13(水)
参加学生: 2名
活動場所: 柏キャンパス　新領域環境棟
備　　考: 東京大学大学院新領域創成科学研究科　環境システム学専攻
大島研究室:
http://www.oshimalab.k.u-tokyo.ac.jp/oshimatop.html

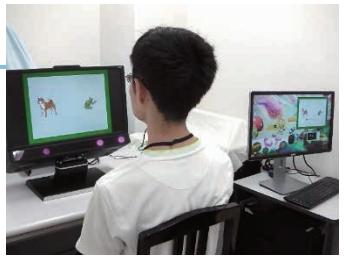
研究室の様子

実験中

## 11. 発達障害のある子どもを対象とした認知心理実験の現場体験

子供を対象とした認知心理実験の現場で、実験の手伝いや、子供が実験に参加している間の保護者への対応、実験前後の休憩中の子供への対応、部屋の準備や掃除などを行った。また実験の内容や手続きについての説明を受け、実験で収集されたデータの解析作業も行った。心理学はその特性上、人間を対象とした実験を行うため、1つのデータを得るだけでも多くの時間と労力を割く必要があるということを実感した。

日　　程: ① 現場体験 2017/8/2(水)-8/12(土), 8/18(金)-8/27(日)
② 解析体験 2017/9/1(金)-3/31(土)のうち1-2週間
参加学生: 2 名
活動場所: 駒場キャンパス　進化認知科学研究センター
備　　考: 東京大学大学院総合文化研究科　教養学部　長谷川研究室:
http://beep.c.u-tokyo.ac.jp/index_japanese/Home.html



アイトラッカー

心拍測定

## 12. DO-IT (Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology) Japan

先端科学技術研究センターにおいて一週間に渡って行われた夏季プログラムで、参加学生はチューターとして全国から選ばれたスカラー・ジュニアスカラー(障害のある児童・生徒の参加者)のアテンダントを行った。スカラーが技術を利用することで学びや生活への支障を減らす「合理的配慮」に触れたり、実際の介助を通して、手を出さずに見守ることやコミュニケーションの難しさを体感したり、参加者の旺盛な学習意欲に刺激を受けるなどの得難い体験をした。

日　　程: 2017/8/6(日)-8/10(木)
参加学生: 3名
活動場所: 駒場Ⅱキャンパス　東京大学先端科学技術研究センター
備　　考: DO-IT Japan
http://doit-japan.org/

ジュニアスカラーのサポート

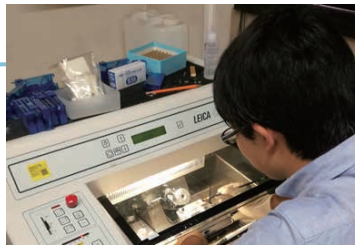
## 13. 演習環境をもちいたサイバーセキュリティ体験活動

初日の満永先生の講義

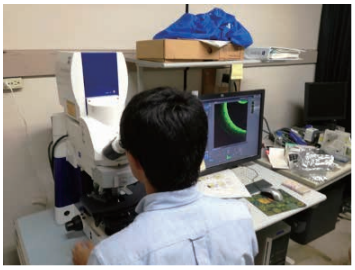
3日間に渡り、情報学環八重洲オフィスにおいて、講義と演習の両面から体験した。初日はWebセキュリティの現状について満永特任准教授の講義を受けたのち、アプリケーションを動作させた。二日目はWeb攻撃を受けた際の状況調査についての講義を受け、実際に演習で検知方法を試した。三日目の演習では実際に攻撃と防御に加えて班ごとに復旧を行い、プレゼンテーションを行った。これからの時代に必須であるセキュリティ知識を演習を交えて学ぶことができた。

日　　程: 2017/9/5(火)-9/7(木)
参加学生: 10名
活動場所: 東京大学大学院情報学環　SiSOC TOKYOオフィス(八重洲)
備　　考: 東京大学大学院情報学環　セキュア情報化社会研究寄附講座
http://sisoc-tokyo.iii.u-tokyo.ac.jp/

## 14. 生体分子から動物個体まで～生物化学の研究体験



マウスの脳切片を作成



蛍光した脳室部分を顕微鏡で観察

理学部生物化学科の7研究室へ参加者の志望や興味によって割り振られ、それぞれの研究室で実験を行った。各研究室ではマウスの大脳半球の神経前駆細胞の染色、ショウジョウバエの卵巣由来の培養細胞oscとカイコの卵巣由来の培養細胞BmN4を用いて電気泳動後の免疫沈降の検出(ウエスタン・ブロッティング)、マウスの行動実験、線虫の神経細胞の蛍光観察などをった。活動のなかで理学部生物化学科について説明を受けると共に、研究倫理についても触れることのできた貴重な体験となった。

日　　程: 2017/8月-10月の各自定められた日程
参加学生: 6名
活動場所: 浅野キャンパス　理学部3号館など
備　　考: 東京大学理学部生物化学科
http://www.bs.s.u-tokyo.ac.jp/biochem/

# Ⅲ　体験活動プログラム活動報告会

2018年2月28日（水）、本郷キャンパス工学部2号館213教室にて、体験活動プログラム報告会を開催した。プログラムに参加した学生、学生を受け入れた学外関係者及び本学教職員等約110名が出席した。

学生スタッフ2名の進行で開会した。まず五神　真総長より、国際交流体験、文化体験、フィールドワーク体験、農林水産業体験や地域体験などの体験を通じて「多様性の尊重」や「自己を相対化する視野」を養う体験活動の重要性と、学生に様々な活動の機会を与えてくださった受入関係者への謝辞が述べられた。

司会担当の学生スタッフ

五神総長の挨拶

続いて、体験活動プログラムの発展に顕著な功績のあった団体に感謝の意を表し功績をたたえる「特別功労賞」授与が行われ、受賞の釜石リージョナルコーディネーター協議会様、三重県玉城町様、東京大学三四郎会様と兵庫県明石市様、株式会社Prima Pinguino様、シカゴ赤門会様へ記念楯が贈られた。

特別功労賞授与の様子

特別功労賞受賞の皆様

参加学生による活動報告の前に、本学教育学研究科の大久保 圭介が和歌山県新宮市の体験活動プログラムに同行し、観察やインタビューを行った結果から考察した体験活動プログラムの効果・評価を報告した。

教育学研究科 大久保 圭介

会場の様子

続いて、5つのプログラム（岩手県花巻市「花巻市大迫町でトライアルステイ～ぶどう栽培体験から考える課題解決の突破口～」、アメリカ「オーガニック農場でのSustainable Agriculture 体験」、島根県雲南市「地域イイトコ発見プロジェクト～フィールドワークから学ぶ地域の健康～」、福島県「被災地福島の農業と環境放射能を知るツアー」、和歌山県新宮市「聖地熊野の歴史文化と自然を体験しつつ、新宮市の文化行政を学ぶ」）に参加した学生が、体験活動から学んだことや将来に活かしたい経験等について報告した。

学生の報告終了後、プログラム関係者からコメントをいただいた。「花巻市大迫町でトライアルステイ」では花巻市地域おこし協力隊の鈴木 寛太氏、「地域イイトコ発見プロジェクト」では医学系研究科医学教育国際研究センター孫 大輔講師が学生を受け入れた感想などをお話しされた。

「花巻市大迫町でトライアルステイ
～ぶどう栽培体験から考える課題解決の突破口～ 」

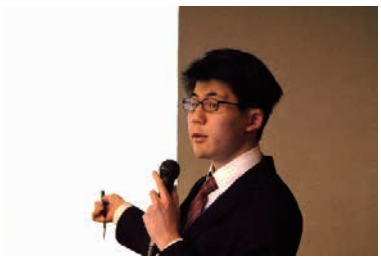
「オーガニック農場 での Sustainable agriculture 体験(米国)」

「地域イイトコ発見プロジェクト 」～フィールドワークから学ぶ地域の健康

花巻市地域おこし協力隊　鈴木 寛太氏

医学系研究科 医学教育国際研究センター　孫 大輔講師

「被災地福島の農業と環境放射能を知るツアー」



「聖地熊野の歴史文化と自然を体験しつつ、新宮市の文化行政を学ぶ」

最後に石井 洋二郎理事・副学長より、体験活動プログラムの特徴である参加学生の変化、成長、困難への対応を客観的に評価する取組について説明と、受入関係者への感謝の言葉が改めて述べられた。

報告会後の懇談会は、学内外の関係者が活動を振り返り、意見交換をする有意義な交流会となった。今年度の報告会及び懇談会を実施するにあたり、約15名の学生が当日の司会、受付及び会場案内などの役割を担い主体的に運営に参画したことは、本プログラムにおける成果の一つとなった。

石井 洋二郎理事・副学長の挨拶

運営に携わった学生スタッフ

# 平成 29 年度体験活動プログラム報告会

日時：平成 30 年 2 月 28 日（水）
15:00～
場所：工学部 2 号館 213 教室
（本郷キャンパス）

## 式　次　第

一．開　　会

一．総長挨拶　　【五神　真　総長】

一．特別功労賞授与

一．プログラム概要と効果　【大久保 圭介 教育学研究科 博士課程 1 年】

一．活動報告

◆花巻市大迫町でトライアルステイ～ぶどう栽培体験から考える課題解決の突破口～
◆オーガニック農場での Sustainable Agriculture 体験（米国）
◆地域イイトコ発見プロジェクト ～フィールドワークから学ぶ地域の健康～
◆被災地福島の農業と環境放射能を知るツアー
◆聖地熊野の歴史文化と自然を体験しつつ、新宮市の文化行政を学ぶ

一．理事挨拶　　【石井　洋二郎　理事・副学長】

一．閉　　会

# Hands-on Activities 2017
# Debriefing Meeting

Date: (Wed.) 28 February 2018, 15:00～
Place: Rm. 213, Faculty of Engineering Bldg.2
(Hongo Campus)

## Opening

## Message from the President

【Makoto Gonokami, President】

## UTokyo Award for Distinguished Contribution to the Hands-on Activities 2017

## Summary and Evaluation 【Keisuke Okubo, 1st Year, Graduate School of Education】

## Presentations

- Trial stay in Oohasamamachi, Hanamaki - Find problem solving methods from Viticulture
- Experiencing Sustainable Agriculture on an Organic Farm in USA
- 'Discover Regional Good Things' Project – Learning about health in the region from field work
- Learn agriculture and environmental radioactivity in Fukushima
- Experiencing the History, Culture and Nature of Kumano - the Spiritual Heartland, and Learning about the Cultural Administration in Shingu city

## Message from the Vice President

【Yojiro Ishii, Executive Vice President】

## Close

非公認キャラクター
もりかも

# 体験活動プログラム

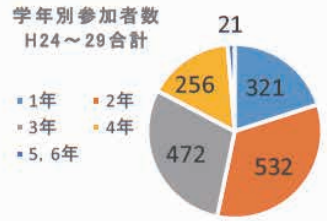
Hands-on Activities

東京大学 THE UNIVERSITY OF TOKYO

## 体験活動プログラムとは

東京大学の学部学生が、今までの生活と異なる文化・価値観に触れるプログラムです。新しい考え方や生活様式を学び、「知のプロフェッショナル」に必要な基礎力である、自ら新しいアイディアや発想力を生み出す力を身に付けます。

東京大学独自のプログラムとして平成24年度から国内外問わず実施され、ボランティアなど社会貢献活動、国際交流、農林水産業・自然体験や地域体験、学内研究室体験など、多様なプログラムで構成されています。



## 体験活動プログラムの効果 ※平成28年度

体験活動プログラムに参加する効果を、プログラム終了後に参加学生が提出する活動報告書に加え、東京大学教育学研究科教育心理学コースの大学院学生が行う質問紙調査による心理学的な成果測定、プログラムに調査者が参加・同行する参与観察、さらに面接調査により検証しています。

**質問紙調査による効果評価**

体験活動の前後で、2項目で変化があった。

1. 社交性や積極性に相当する「外向性」値と、責任感や忍耐力に関連する「誠実性」の高まり
2. ストレス耐性の高まり

**参与観察**

福井県での循環型農業体験参加学生の変化を活動観察やインタビューから考察。

⇒今後研究を進める上での現場の声の大切さ、幅広い考え方を持つ重要性を学んだ等、将来の自分に対しての影響が示唆された。

オーガニック農場ボランティア(アメリカ)

地域行政体験(島根)

こども達の自然体験活動をサポート(兵庫)

超臨界水実験(新領域創成科学研究科)

農業牧場体験(北海道)

日本語授業サポート(スウェーデン王立工科大学)

**参加学生の感想**

NYで働くことの感覚や魅力について、現地で働く方々とお話をすることでその一端を感じることができ、海外で活躍することのハードルが想像以上に低く、実現可能な夢であるという気付きを得ることができた。(ニューヨーク卒業生との交流)

東京にいると見えない一次産業の現場に触れ、生産者の方に直接お話を伺い、自分の目で見て感じることで多くを吸収できた。みなさん暖かく迎えてくださり『また訪ねたい・帰ってきたい』と思える場所ができたことは良かった。(岩手県　農水産業体験)

参加学生が活動について発表する報告会は、参加学生有志が司会や誘導を務めます。

**本プログラムは学生受入先の学内外関係者のご協力で成立しています。**

東京大学本部学生支援課　体験活動推進チーム
taikenkatsudou.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp　03-5841-2541/2542
https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html

MORIKAMO
Unofficial mascot

# Hands-on Activities

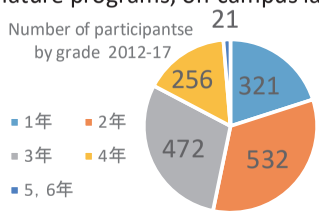
## 体験活動プログラム

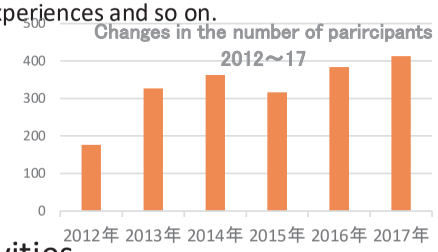
東京大学 THE UNIVERSITY OF TOKYO

## What is “Hands-on Activities”?

The Hands-on Activities offer UTokyo undergraduate students chances to learn about new cultures and sets of values. Through the activities, students discover new ways of thinking and lifestyles, and acquire the skills to make new ideas by themselves, a requirement to be a “knowledge professionals.”

The Hands-on Activities, one of original programs in UTokyo, started in 2012 and takes place in Japan as well as abroad, and consists of various programs such as volunteer work, international experience, agricultural sciences and nature programs, on-campus lab experiences and so on.




*The result of researches in 2016

## Effects of Hands-on Activities

We are researching into the impacts the Hands-on Activities has on the students using questionnaire based surveys and participant observation by graduate students majoring in educational psychology, in addition to report written by participants.

**questionnaire based survey**

Large changes were seen in two areas after the activity.

1 Extroverted nature increased leading to:
→ ・being more proactive to advance into society
・improvement of communication skill
2 Increase in stress tolerance
→ gaining the ability to adapt to new environments

**participant observation**

Observation of changes in students participating in the recycling-based agriculture experience program in Fukui Prefecture through on-site observation and interviews.

⇒Results suggest that the program influences students through their learning about the importance of the views of people on-site when proceeding with research, as well as about the importance of being able to have a broad way of thinking.

Work experience at an organic farm (NJ, USA)

Regional administrative experience (Shimane, Japan)

Support the natural experience activities of children(Hyougo)

Supercritical Water experiment (Grad School of Frontier Sciences)

Agriculture experience (Hokkaido)

Support Japanese language class (Sweden)

### Participants reports

I felt the charm of working in NY by talking with people working there and I realized that the barriers of working abroad were much lower than imagined and realizable dreams I was able to get it.(N.Y. , Meet with alumni)

I touched the site of the primary industry and absorbed much by hearing stories directly from the producers and seeing it with my own eyes. It was good that everyone greeted us warmly and I was able to have a place, "I want to visit again . I want to return". (Iwate prefecture agriculture and fishery industry experience)

The debrief sessions where participants make presentations are run by the students themselves.

Hands-on Activities is only possible with the support of the people who accept students.

Hands-on Activities Support Team, Student Support Group, UTokyo
taikenkatsudou.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp 03-5841-2541/2542
https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html

東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

平成29年度　体験活動プログラム活動報告

作成　平成30年6月
編集　東京大学　教育・学生支援部　学生支援課　体験活動推進チーム
住所　〒113-8654　東京都文京区本郷7-3-1
電話番号　03-5841-2541/2542
URL　https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html